

FUJITSU Workstation CELSIUS

CELSIUS C620

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 ソフトウェア

5 BIOS

6 iRMC

7 お手入れ

8 トラブル
シーティング

9 仕様

製品ガイド

目次

本書をお読みになる前に	6
安全にお使いいただくために	6
本書の表記	6
Windowsの操作	8
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 ワークステーション本体前面	11
1.2 ワークステーション本体背面	12
第2章 取り扱い	
2.1 ディスプレイ	14
2.1.1 注意事項	14
2.1.2 解像度を変更する	14
2.1.3 拡大表示設定を変更する	15
2.2 マルチディスプレイ機能	17
2.2.1 マルチディスプレイ機能とは	17
2.2.2 注意事項	18
2.2.3 マルチディスプレイ機能を設定する	19
2.3 省電力	21
2.3.1 省電力状態	21
2.3.2 電源を切る	24
2.3.3 省電力設定	26
2.3.4 「ディスプレイの電源を切る」	27
2.3.5 UPSを使用する場合	27
2.4 光学ドライブ	28
2.4.1 注意事項	28
2.4.2 使用できるディスク	29
2.4.3 ディスクをセットする	31
2.4.4 ディスクを取り出す	32
2.4.5 ディスクに書き込む	33
2.5 通信	35
2.5.1 有線LAN	35
2.6 セキュリティチップ	38
第3章 周辺機器	
3.1 周辺機器を取り付ける前に	40
3.1.1 注意事項	40

3.2 コネクタの接続／取り外し	41
3.2.1 注意事項	41
3.2.2 ディスプレイコネクタ	41
3.2.3 USBコネクタ	43
3.2.4 LANコネクタ	44
3.2.5 シリアルコネクタ	45

第4章 ソフトウェア

4.1 ソフトウェアの紹介	47
4.1.1 一覧表の見かた	47
4.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア	48
4.1.3 サポート関連のソフトウェア	49
4.1.4 ユーティリティ	50
4.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア	50
4.1.6 メールソフト	50
4.2 インストール	51
4.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール	51
4.2.2 「マカフィー マルチアクセス」のインストール	53
4.2.3 「i-フィルター」のインストール	53
4.3 アンインストール	54
4.3.1 注意事項	54
4.3.2 アンインストール方法	54

第5章 BIOS

5.1 BIOSセットアップ	56
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた	57
5.2.1 BIOSセットアップを起動する	57
5.2.2 BIOSセットアップ画面	57
5.2.3 BIOSセットアップメニュー	58
5.2.4 各キーの役割	58
5.2.5 BIOSセットアップを終了する	59
5.2.6 起動メニューを使用する	60
5.3 設定事例集	61
5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う	61
5.3.2 起動デバイスを変更する	64
5.3.3 セキュリティチップの設定を変更する	65
5.3.4 Wakeup on LANを有効にする	66
5.3.5 Wakeup on RTCを有効にする	67
5.3.6 イベントログを確認する	68
5.3.7 イベントログを消去する	68
5.3.8 ご購入時の設定に戻す	69
5.4 ME BIOS Extension	70
5.4.1 初期パスワードを変更する	71

5.4.2 MEセットアップを起動する	73
5.4.3 MEセットアップを終了する	74
5.4.4 メニュー詳細	75

第6章 iRMC

6.1 iRMC (リモートマネージメントコントローラ)	77
6.1.1 IPアドレスの設定	77
6.1.2 iRMCにログインする	78
6.1.3 言語の変更	79
6.2 iRMCユーザー アカウント	80
6.2.1 新しいユーザー アカウントの作成	81
6.2.2 ユーザー アカウント名／パスワードの設定	83
6.2.3 ユーザー アカウントの権限設定	84
6.2.4 ユーザー アカウントの無効化	85
6.2.5 ユーザー アカウントの削除	86
6.3 電源管理	87
6.3.1 電源制御の設定	87
6.3.2 電源投入時刻の設定	88
6.4 IDランプの遠隔操作	90
6.4.1 IDランプの点灯／消灯	90
6.5 ネットワーク設定	91
6.5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)	91
6.5.2 セッションタイムアウトと自動リフレッシュ時間の設定	93
6.5.3 DNS設定	94
6.5.4 ネットワーク設定の初期値	95
6.6 センサー確認	99
6.6.1 ファンの状態を確認する	99
6.6.2 温度センサーの状態を確認する	101
6.6.3 ステータスモニター	102
6.7 システムイベントログ (SEL)	107
6.7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する	107
6.7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する	108
6.8 E-mail通知	109
6.8.1 E-mail通知の設定	109
6.8.2 テストメールの送信	113
6.8.3 テストメールと E-mail通知の確認	114
6.8.4 主な送信 E-mail 内容一覧	121
6.8.5 E-mail設定の初期値	122

第7章 お手入れ

7.1 日常のお手入れ	126
7.1.1 ワークステーション本体の表面の汚れ	126

第8章 ブラウジング

8.1 トラブル発生時の基本操作	128
8.1.1 状況を確認する	128
8.1.2 以前の状態に戻す	129
8.1.3 セーフモードで起動する (Windows 7の場合)	130
8.1.4 トラブルシューティングで調べる	131
8.1.5 Windowsのヘルプで調べる	131
8.1.6 インターネットで調べる	131
8.1.7 診断プログラムを使用する	131
8.1.8 サポートの窓口に相談する	133
8.2 よくあるトラブルと解決方法	134
8.2.1 トラブル一覧	134
8.2.2 起動・終了時のトラブル	136
8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	138
8.2.4 ハードウェア関連のトラブル	140
8.2.5 エラーメッセージ一覧	148
8.3 それでも解決できないときは	151
8.3.1 お問い合わせ先	151

第9章 仕様

9.1 本体仕様	154
9.1.1 C620	154
9.1.2 グラフィックスカード	157
9.2 CPU	158
9.3 ディスプレイ	160
9.3.1 解像度	160
9.4 光学ドライブ	161
廃棄・リサイクル	162
付録	163
付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意	163
ワークステーションの廃棄・譲渡時の	
ハードディスク上のデータ消去に関する注意	163
ハードディスクデータ消去	164
付録2 Windowsの新規インストールについて	166
注意事項	166
新規インストールの準備	166
新規インストール手順	167
索引	168

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2014年5月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。 必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつなぎで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイスマネージャー」をクリックする操作

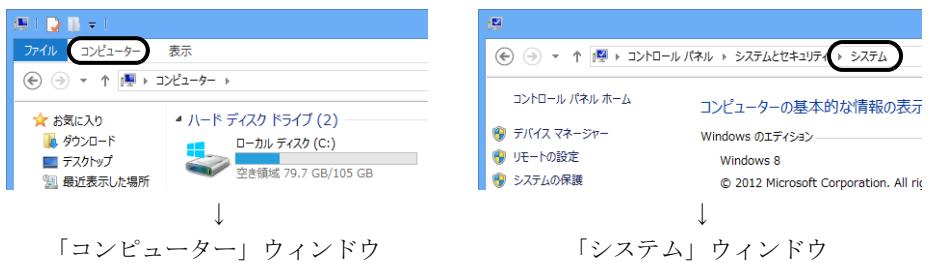
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syuskou/>)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載しているディスク

ディスク名称
リカバリデータディスク
トラブル解決ナビディスク [リカバリ起動ディスク]
ドライバーズディスク

ご購入時の構成によっては、これらのディスクは添付されていません。

本ワークステーションに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

重要

- ご購入時にディスクが添付されている場合、「リカバリデータ」と「トラブル解決ナビ」は1枚のディスクに格納されています。
- 本文中に「リカバリデータディスク」および「トラブル解決ナビディスク」と記載されている箇所は、「トラブル解決ナビ&リカバリデータディスク」を使用してください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Windows 8 Pro 64 ビット版	Windows 8 (64 ビット版)	Windows 8	Windows
Windows 7 Professional 64 ビット版	Windows 7 (64 ビット版)	Windows 7	
Windows Internet Explorer [®] 10	Internet Explorer		
Windows Internet Explorer [®] 9			
Windows Media [®] Player 12	Windows Media Player		
Windows Live [®] メール Version 2011	Windows Live メール		
Adobe [®] Reader [®]	Adobe Reader		
i- フィルター [®] 6.0	i- フィルター		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
マカフィー [®] マルチアクセス - インターネットセキュリティ	マカフィー マルチアクセス		
NVIDIA [®] Quadro [®] K4000	Quadro K4000	Quadro シリーズ	
NVIDIA [®] Quadro [®] K2000	Quadro K2000		
NVIDIA [®] Quadro [®] K600	Quadro K600		

Windows の操作

■ Windows のヘルプ

本書で説明されていない Windows の機能については、次の操作で表示される Windows のヘルプをご覧ください。

● Windows 8 の場合

1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
2. 「Windows システム ツール」の「ヘルプとサポート」をクリックします。

● Windows 7 の場合

1. 「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にクリックします。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

「コントロールパネル」 ウィンドウの開き方が、Windows 8 と Windows 7 で異なります。

次の手順で「コントロールパネル」 ウィンドウを表示させてください。

□ Windows 8 の場合

1. 【■】 + 【X】 キーを押し、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

POINT

- ▶ 次の操作でも表示することができます。
 1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
 2. 「Windows システム ツール」の「コントロールパネル」をクリックします。

□ Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ ユーザーアカウント制御

本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ チャーム (Windows 8)

「チャーム」とは、必要なときに表示させて使う縦長のバーのことです。

マウスポインターを画面の右上隅に合わせると表示されます (【Win】 + 【C】キーでも表示されます)。

■ 通知領域のアイコン

デスクトップ画面の通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域の  をクリックします。

商標および著作権について

インテル、Intel、インテル vPro、Xeon および Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro、Quadro は、NVIDIA Corporation の登録商標です。

Adobe、Reader は、合衆国および／またはその他の国における Adobe Systems 社の登録商標または商標です。

Roxio、Roxio のロゴ、Roxio Creator は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

McAfee、マカフィー は、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright FUJITSU LIMITED 2013-2014

1

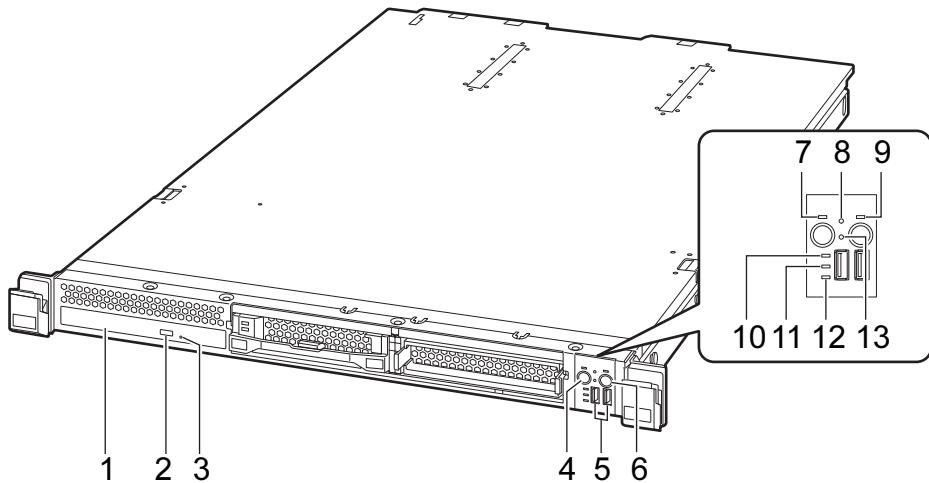
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1 ワークステーション本体前面	11
1.2 ワークステーション本体背面	12

1.1 ワークステーション本体前面



1 光学ドライブ

スーパーマルチドライブが搭載されています。 (→P.28)

2 ディスク取り出しボタン

3 強制取り出し穴

光学ドライブのトレーが開かなくなったらときに使用する穴です。 (→P.33)

4 IDボタン

メンテナンスをするときに、IDボタンを押すことで、本ワークステーションを判別するためのIDランプを点灯させます。

5 USBコネクタ

USB2.0に準拠しています。

6 電源ボタン

ワークステーション本体の電源を入れたり、省電力状態 (→P.21) にしたりします。

7 IDランプ

IDボタンが押されると、青色に点灯します。

8 リセットボタン

本ワークステーションでは使用できません。

9 電源ランプ

本ワークステーションの状態を表示します。

ランプ	本ワークステーションの状態
緑色点灯	動作状態
緑色点滅	スリープ状態
オレンジ色点灯	電源オフ(電源ケーブル接続時) ／休止状態 ^注
消灯	電源ケーブルを接続していない

注：電源を切った後すぐに電源ボタンを押した場合は、数秒待った後に電源が入ります。これにより電流過負荷が回避されます。

10 保守ランプ

本ワークステーションの状態を表示します。

ランプ	本ワークステーションの状態
消灯	正常(警告／異常を未検出)
オレンジ色点灯	警告を検出 ^注
オレンジ色点滅	異常を検出 ^注

注：電源オフ状態および省電力状態(スリープ、休止状態)の場合も、ランプは点灯または点滅します。
(→P.147)

11 ディスクアクセスランプ

CDやDVDにアクセスしているとき、または光学ドライブのトレー開閉時に点灯します。

12 CSSランプ

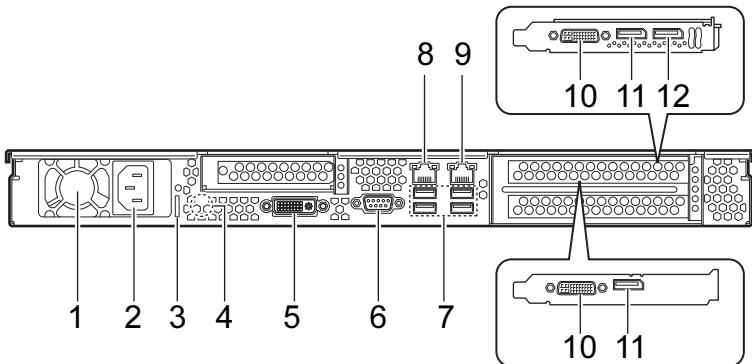
本ワークステーションでは、サポートしていません。

13 NMIボタン

本ワークステーションでは使用できません。

1.2 ワークステーション本体背面

● Quadro K4000／K2000の場合



● Quadro K600の場合

1 排気孔

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃がします。

2 インレット

本ワークステーションに添付の電源ケーブルを接続します。

3 電源ケーブル固定用穴

添付のリピートタイで、電源ケーブルを固定します。

4 IDランプ

IDボタンが押されると、青色に点灯します。

5 デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I)

グラフィックスカードを選択した場合は、使用できません。

6 シリアルコネクタ

7 USBコネクタ

USB3.0に準拠しています。

8 LANコネクタ1

通常での使用、またはvPro (iAMT) を使用する場合に接続します。

9 LANコネクタ2

通常での使用、またはワークステーション制御用コネクタです (iRMC)。

IPアドレスは、LANコネクタ1と異なるサブネットアドレスで使用してください。

(→P.35)

10 デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I)

(グラフィックスカード搭載機種)
アナログディスプレイおよびデジタルディスプレイを接続します。

- Quadro K4000/K2000の場合は、3台のディスプレイを同時に接続することができます。
- Quadro K600の場合は、2台のディスプレイを同時に接続することができます。
(→P.17) (→P.41)

11 DisplayPortコネクタ1

(グラフィックスカード搭載機種)
デジタルディスプレイを接続します。

- Quadro K4000/K2000の場合は、3台のディスプレイを同時に接続することができます。
- Quadro K600の場合は、2台のディスプレイを同時に接続することができます。
(→P.17) (→P.41)

12 DisplayPortコネクタ2

(グラフィックスカード搭載機種)
デジタルディスプレイを接続します。
3台のディスプレイを同時に接続することができます。
(→P.17) (→P.41)

2

第2章

取り扱い

本ワークステーションを使用するうえでの基本操作や、本ワークステーションに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1 ディスプレイ	14
2.2 マルチディスプレイ機能	17
2.3 省電力	21
2.4 光学ドライブ	28
2.5 通信	35
2.6 セキュリティチップ	38

2.1 ディスプレイ

ここでは、本ワークステーションに接続した1台のディスプレイを使う方法について説明しています。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。ディスプレイを接続する方法については、「3.2.2 ディスプレイコネクタ」(→P.41)をご覧ください。

2.1.1 注意事項

- お使いのディスプレイと本ワークステーションの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。

2.1.2 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、発色数、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。

「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。

3 「解像度」、「色深度」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。

設定可能な値は、「9.3.1 解像度」(→P.160)をご覧ください。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

☞ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

「NVIDIAコントロールパネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」→「解像度の変更」の順にクリックします。

3 「解像度」、「色の深度」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。

設定可能な値は、「9.3.1 解像度」(→P.160)をご覧ください。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

☞ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.1.3 拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。

「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「一般設定」をクリックします。

3 「スケーリング」を設定します。

- ・画像を中央揃えにする

画面は拡大されずに中央に表示されます。

- ・全画面のスケールにする

画面がディスプレイ全体に拡大されます。

- ・縦横比を保持する
画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。
- ・ディスプレイスケーリングを保持する
ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

POINT

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

POINT

- ▶ アナログディスプレイでは、この機能は使用できません。

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

「NVIDIAコントロールパネル」が表示されます。

2 「ディスプレイ」→「デスクトップのサイズと位置の調整」の順にクリックします。

3 拡大表示設定を選択します。

・縦横比

画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。

・全画面表示

画面がディスプレイ全体に拡大されます。

・スケーリングなし

画面は拡大されずに中央に表示されます。

4 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

POINT

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

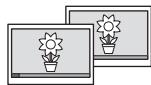
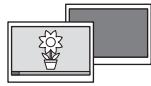
2.2 マルチディスプレイ機能

本ワークステーションに複数のディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.2.2 ディスプレイコネクタ」(→P.41)をご覧ください。

2.2.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windows 8の場合は、Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。ただし、通知領域のアイコンと、日時の表示はプライマリディスプレイにのみ表示されます。 Windows 7の場合は、Windowsのタスクバーは1つのディスプレイにのみ表示され、このディスプレイをプライマリディスプレイと呼び、もう1つのディスプレイをセカンダリディスプレイと呼びます。それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【■】 + 【P】 キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.2.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本ワークステーションの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するソフトウェアは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 2台以上のディスプレイを接続している場合、POST画面やBIOSセットアップ画面の表示されるディスプレイは次のようにになります。
 - ・グラフィックスカードを選択しなかった場合
DVI-I
 - ・Quadro K4000／Quadro K2000／Quadro K600を選択し、Windows 8の場合

表示される優先順位	1	2	3
表示されるディスプレイを接続しているコネクタ	DisplayPort 1	DisplayPort 2 ^注	DVI-I

注：Quadro K4000／Quadro K2000を選択した場合のみ

「DVI-VGA変換アダプタ」や「DP-DVI変換ケーブル」を使用してディスプレイを接続すると、優先順位が下がります。

例：DisplayPort 1コネクタ（DP-DVI変換ケーブル）とDVI-Iコネクタにディスプレイを接続した場合は、DVI-Iコネクタに接続されたディスプレイに表示される。

- Quadro K4000／Quadro K2000／Quadro K600を選択し、Windows 7の場合

表示される優先順位	1	2	3
表示されるディスプレイを接続しているコネクタ	DVI-I	DisplayPort 1	DisplayPort 2 ^注

注：Quadro K4000／Quadro K2000を選択した場合のみ

「DVI-VGA変換アダプタ」や「DP-DVI変換ケーブル」を使用してディスプレイを接続しても表示される優先順位は変わりません。

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがあります、故障ではありません。
- ご利用になるアプリケーションや環境によっては、マルチディスプレイが使用できない場合があります。その場合は、シングルディスプレイで使用してください。

2.2.3 マルチディスプレイ機能を設定する

■ グラフィックスカードを選択しなかった場合

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。

「インテル® グラフィック/メディア・コントロール・パネル」が表示されます。

「次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください」と表示された場合は、「基本モード」をクリックし、「OK」をクリックします。

2 ウィンドウ左の「ディスプレイ」をクリックし、「マルチディスプレイ」をクリックします。

3 「動作モード」を選択します。

- ・拡張デスクトップにする場合、「拡張デスクトップ」を選択します。必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「1」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
- ・クローン表示にする場合、「クローンディスプレイ」を選択します。
- ・シングル表示にする場合、「シングルディスプレイ」を選択します。
- ・2つのディスプレイに表示する場合、「2」を選択します。

4 必要に応じてウィンドウ左の「一般設定」をクリックし、「解像度」、「色深度」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定します。

※ 重要

- ▶ 拡張デスクトップやクローン表示にする場合、発色数は両方のディスプレイで同じ値を設定してください。クローン表示にする場合は、解像度も同じ値を設定してください。

5 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

※ 重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

■ グラフィックスカードを選択した場合

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面で「デスクトップ」をクリックします。
2. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. デスクトップ画面で右クリックし、「NVIDIAコントロールパネル」をクリックします。

2 「ディスプレイ」→「複数のディスプレイの設定」の順にクリックします。

- ・拡張デスクトップにする場合、2台のディスプレイにチェックを付け、表示されているディスプレイを右クリックし、「デスクトップをこのディスプレイに拡張する」をクリックします。
必要に応じて、表示されているディスプレイをドラッグして、2つのディスプレイの位置を設定します。「*」と表示されているのがプライマリディスプレイです。
- ・クローン表示にする場合、2台のディスプレイにチェックを付け、表示されているディスプレイを右クリックし、「ディスプレイを複製する」をクリックします。
- ・シングル表示にする場合、表示する1台のディスプレイにのみチェックを付けます。

3 「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

4 必要に応じて「ディスプレイ」→「解像度の変更」をクリックして、「解像度」、「色の深度」(発色数)、「リフレッシュレート」を設定し、「適用」をクリックします。

確認のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作します。

重要

- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.3 省電力

ここでは、ワークステーションを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.3.1 省電力状態

Windowsの動作を一時的に中断させた状態です。スリープ状態と休止状態があります。

スリープ状態ではメモリにWindowsの状態を保存するため、電力を少しづつ消費しますが、素早くレジュームできます。休止状態ではハードディスクにWindowsの状態を保存するため、電源が切れてもWindowsの状態を保存できます。

また、本ワークステーションでは、ハイブリッドスリープにすることもできます。ハイブリッドスリープでは、作業中のデータをメモリとハードディスクの両方に保存します。そのため、電源が入っているときはスリープ状態のように素早くレジュームでき、電源が切れた場合でも元の状態にレジュームできます。ハイブリッドスリープが有効になっていると休止状態は使用できません。ハイブリッドスリープの設定を変更するには、「■ ハイブリッドスリープの設定を変更する」(→P.23) をご覧ください。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

操作／条件	動作
メニューから選択する	<p>次の操作で選択したメニューの動作になります。</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows 8の場合 <ol style="list-style-type: none">1. 「チャーム」を表示し、そのまま真下にマウスポインターを移動させて「設定」をクリックします。 チャームの表示は「■ チャーム (Windows 8)」(→P.9)をご覧ください。2. 「電源」をクリックし、メニューを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• Windows 7の場合 <p>「スタート」メニューから選択します。</p>
電源ボタンを押す <small>注</small>	<p>Windowsが終了し、電源が切れます。</p> <p>「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.26)</p>
一定時間操作しない	<p>スリープ状態になります。</p> <p>「■ 電源プランの設定を変更する」(→P.26)</p>

注：電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずに本ワークステーションの電源が切れてしまいます。

■ 省電力状態からレジュームする

操作／条件	動作
電源ボタンを押す	レジュームします。
USBキーボードやUSBマウスを操作する	レジュームします。
Wakeup on LAN (WoL) 機能	レジュームします。 「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.23)

■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・レジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からレジュームする機能があります。ここでは、省電力状態からレジュームするための設定について説明します。

電源オフ状態から起動する機能については、「5.3.4 Wakeup on LANを有効にする」(→P.66)をご覧ください。

- 1** 管理者アカウントでサインイン（ログオン）します。
- 2** コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
- 3** 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 4** 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection または、Intel(R) 82574L Gigabit Network Connection
- 5** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 6** WoL機能を有効にするには次の項目にチェックを付け、無効にするにはチェックを外します。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする

POINT

- ▶ マジックパケットを受信したときのみ省電力状態からレジュームさせるようにするには、「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にもチェックを付けます。

- 7** 「OK」をクリックします。

■ ハイブリッドスリープの設定を変更する

- 1** コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 2** 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 3** 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 4** 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。
- 5** 設定を変更し、「OK」をクリックします。

2.3.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてワークステーション本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切る前に、あらかじめディスクを取り出してください（→P.32）。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。必ず30秒以上たってから電源を入れるようしてください。
- 長期間使用しない場合、または電源を完全に切断する場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ Windows 8の電源の切り方

次のいずれかの方法で、ワークステーション本体の電源を切ります。

□ Windowsを終了する

- 1 「チャーム」を表示し、そのまま真下にマウスポインターを移動させて「設定」をクリックします。
チャームの表示は「■ チャーム（Windows 8）」（→P.9）をご覧ください。
- 2 「電源」をクリックします。
- 3 「シャットダウン」をクリックします。

□ 完全に電源を切る

◀ 重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でワークステーションの電源を切ってください。
- ・トラブル解決ナビを起動する
 - ・BIOS セットアップを起動する
 - ・診断プログラムを使用する

- 1 「チャーム」を表示し、そのまま真下にマウスポインターを移動させて「設定」をクリックします。
チャームの表示は「■ チャーム（Windows 8）」（→P.9）をご覧ください。
- 2 「PC 設定の変更」をクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「全般」をクリックします。
- 4 画面右側のメニューで「今すぐ再起動する」をクリックします。
表示されない場合は画面をスクロールします。
- 5 「PC の電源を切る」をクリックします。

■ Windows 7の電源の切り方

次のいずれかの方法で、Windowsを終了させてワークステーション本体の電源を切れます。

□「スタート」メニューから操作する

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

しばらくするとWindowsが終了し、ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

POINT

▶ 「スタート」ボタン→[シャットダウン] の ▶ →「再起動」の順にクリックすると、ワークステーション本体を再起動できます。

□電源ボタンを押す

1 電源ボタン（→P.11）を押します。

ご購入時の設定では、しばらくするとWindowsが終了し、ワークステーション本体の電源が自動的に切れます。

POINT

▶ 電源ボタンは4秒以上押さないでください。電源ボタンを4秒以上押すと、Windowsが正常終了せずにワークステーション本体の電源が切れてしまいます。

POINT

▶ 電源ボタンを押したときの動作を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.26）をご覧ください。

2.3.3 省電力設定

ご利用の状況にあわせて電源プランを切り替えることで、消費電力を節約することができます。

■ 電源プランを切り替える

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 2 お使いになる電源プランをクリックします。

POINT

- ▶ 電源プランを作成するには、ウィンドウ左の「電源プランの作成」をクリックし、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 2 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 3 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 4 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 5 「OK」をクリックします。

2.3.4 「ディスプレイの電源を切る」

ディスプレイの電源を切り、消費電力を抑える機能です。マウスやキーボードを操作することで、すぐに元の画面に復帰できます。

■ 注意事項

- 映像を取り扱うソフトウェアを使用中は、「ディスプレイの電源を切る」を使用しないでください。
- Windowsの電源オプションと関係なく動作します。

■ メニューからディスプレイの電源を切る

□ Windows 8の場合

- 1 スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
- 2 「FUJITSU - ディスプレイの電源を切る」の「ディスプレイの電源を切る」をクリックします。

□ Windows 7の場合

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスプレイの電源を切る」→「ディスプレイの電源を切る」の順にクリックします。

2.3.5 UPSを使用する場合

UPS (Uninterruptible Power Supply) や、UPSの制御ソフトウェアを本ワークステーションでお使いになる場合、電源プランの設定を変更 (→P.26) し、必ず省電力機能を無効にしてください。

設定変更を行わないと、省電力機能が働いてスリープ状態や休止状態になり、UPSが誤動作するおそれがあります。

また、UPSからの給電再開時のワークステーションの動作については、BIOSセットアップの「IPMI管理」メニューの「AC通電再開時の動作」で設定します。BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

2.4 光学ドライブ

ここでは、光学ドライブとCD／DVDなどのディスクの取り扱いについて説明しています。

ディスクの取り扱いについては、お使いのディスクのマニュアルをご覧ください。また、光学ドライブの仕様については、「9.4 光学ドライブ」(→P.161)をご覧ください。

2.4.1 注意事項

- ディスクアクセスランプ(→P.11)が点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因となりますので絶対に使わないでください。

2.4.2 使用できるディスク

■ 注意事項

- 直径8cmまたは直径12cm、厚さ1.14mm～1.5mmの円形のディスクのみ使用できます。
ただし、直径8cmのディスクは、読み込みにのみ対応しています。それ以外のディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- ゆがんだディスク、重心の偏ったディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクは使用しないでください。故障の原因となります。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないディスクは、使用できない場合があります。
- 記載されているディスクが販売されていない場合もあります。

■ 使用できるディスク

ディスク	読み込	書込	書換
CD-ROM	○	×	×
音楽CD	○	×	×
ビデオCD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW ^{注1}	○	○	○
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video ^{注2}	○	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○	×
DVD-R DL (8.5GB) ^{注3}	○	○	×
DVD-RW	○	○	○
DVD+R (4.7GB)	○	○	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○	○
DVD-RAM (4.7GB/9.4GB) ^{注4}	○	○	○
DVD-RAM2 ^{注4注5}	○	×	×

注1：Ultra Speed CD-RWディスクは使用できません。

注2：DVD-Videoの再生はサポートしていません。

注3：追記はできません。また追記されたディスクの読み込みは保証しません。

注4：・カートリッジに入れた状態で使用するタイプ(Type1)は使用できません。

・2.6GBおよび5.2GBのディスクは使用できません。

注5：5倍速までの読み込みとなります。

■ 推奨ディスク

光学ドライブで書き込みや書き換えを行う場合は、次のディスクの使用をお勧めします。それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

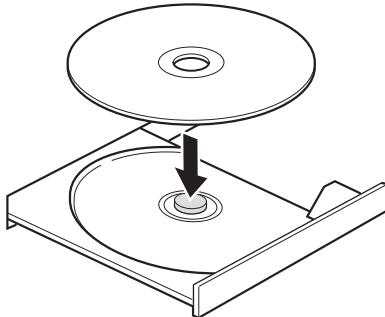
ディスク種別	メーカー	型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY10SV、CDR80WPY10BV
CD-RW	Verbatim (バーベイタム)	SW80EU5V1、SW80EU10V1、 SW80QU5V1、SW80QM5V1、 SW80QP5V1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTY50BNT、DR-47WWY10SNT、 DR-47WWY50BN、DVD-R47XY10P
	Verbatim (バーベイタム)	DHR47J10V1、DHR47JM10V1、 DHR47JP10V1
DVD-R DL	Verbatim (バーベイタム)	DHR85HP5V1、DHR85HP10V1
DVD-RW	Verbatim (バーベイタム)	DHW47Y10V1
DVD+R	ソニー	10DPR47HPSH
DVD+R DL	Verbatim (バーベイタム)	DTR85HP5V1
DVD+RW	ソニー	5DPW47HPS
DVD-RAM	パナソニック	LM-HC47L (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HC47LW5 (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HB94L (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)

2.4.3 ディスクをセットする

1 トレーを開きます。

ディスク取り出しボタン (→P.11) を押します。

2 ディスクをトレーに載せます。



3 トレーを閉じます。

ディスク取り出しボタン (→P.11) を押します。

☞ 重要

- トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

☞ POINT

- 光学ドライブにディスクをセットして「コンピューター」ウィンドウの光学ドライブアイコンをクリック（設定によってはダブルクリック）すると、ワークステーションがディスクを認識する前にトレーが自動に開くことがあります。
ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクアクセスランプ (→P.11) が消えてからディスクの操作を行ってください。

2.4.4 ディスクを取り出す

ディスクを取り出す前に、次のことを確認してください。

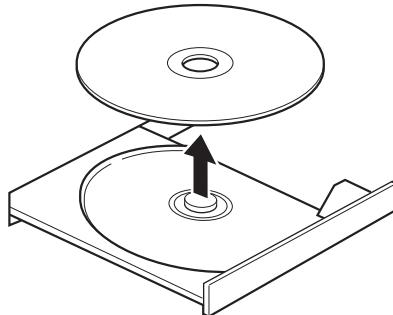
- ディスクアクセスランプ（→P.11）が点灯していないこと。
ディスクアクセスランプが消灯するまで待ってください。
- ソフトウェアがディスクを使用していないこと。
ソフトウェアの機能を使ってトレーを開くか、ソフトウェアを終了してください。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ディスク上のファイルを開いていないこと。
ファイルを閉じてください。

上記の項目を確認してもトレーが開かない場合は、本ワークステーションを再起動してください。本ワークステーションを再起動してもトレーが開かない場合は、「■ トレーを強制的に開く」（→P.33）をご覧ください。

1 トレーを開きます。

ディスク取り出しボタン（→P.11）を押します。

2 ディスクを取り出します。



3 トレーを閉じます。

ディスク取り出しボタン（→P.11）を押します。

☞ 重要

▶ トレーに指などをはさまないようにしてください。けがの原因となります。

■ トレーを強制的に開く

「2.4.4 ディスクを取り出す」(→P.32) の手順でトレーが開かない場合は、次の手順でトレーを開きます。

☞ 重要

▶ どうしてもトレーが開かない場合にのみ実行してください。

- 1 ワークステーション本体の電源を切ります。
- 2 強制取り出し穴(→P.11)に、太めのペーパクリップを伸ばしたものなどを、トレーが少し出てくるまで押し込みます。
- 3 トレーを静かに引き出します。

2.4.5 ディスクに書き込む

記録可能ディスクに書き込むには「Roxio Creator」(→P.50)を使用します。詳しくは、次の手順で「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

- 1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
2. 「Roxio Creator LJ」の「Roxio Creator LJ」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio Creator LJ」→「Roxio Creator LJ」の順にクリックします。

- 2 「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」の順にクリックします。

POINT

▶ DVD-RAMはフォーマットすることにより、USBメモリのように直接Windowsエクスプローラーなどで書き込むことができます。DVD-RAMをフォーマットするには「■ DVD-RAMをフォーマットする」(→P.34)をご覧ください。

■ 注意事項

- 本ワークステーションで作成したディスクは、ディスクの種類や書き込み形式などにより他の機器では使用できない場合があります。お使いの機器で使用できるディスクの種類や書き込み形式などについては、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。また、ディスクの記録状態によっても使用できない場合があります。
- 光学ドライブにディスクをセットしてすぐに操作をすると、ワークステーションがディスクを認識する前にトレーが自動に開くことがあります。
ディスクをセットした後30秒程度待ち、ディスクが使用可能になってから操作を行ってください。

- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。また、省電力状態にもしないでください。
- ディスクへの書き込みには高い処理能力が必要です。ディスクに書き込み中は、他のソフトウェアを使用しないことをお勧めします。
- 自動再生が有効に設定されていると、ディスクへの書き込みができない場合があります。その場合は次の手順で自動再生を無効に設定してください。
 1. コントロールパネルの「自動再生」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」
 2. 「すべてのメディアとデバイスで自動再生を使う」のチェックを外し、「保存」をクリックします。
- 「Roxio Creator」は、パケットライトによる書き込みには対応していません。
- 外付け光学ドライブをお使いになる場合も、外付け光学ドライブに添付されている「Roxio Creator」ではなく、本ワークステーションの「Roxio Creator」をお使いください。
- DVD+R DLにデータを書き込む場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約512MB)が書き込まれます。このため、書き込み可能な最大容量は約7.99GBとなります。

■ DVD-RAMをフォーマットする

DVD-RAMを初めてお使いになる場合や、すべてのデータを消去する場合は次の手順でDVD-RAMをフォーマットします。

POINT

- ▶ 両面タイプのDVD-RAMディスクは片面ごとにフォーマットします。

- 1 フォーマットするDVD-RAMをセットします(→P.31)。
- 2 次の操作を行います。
 - Windows 8の場合
 1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
 2. 「Windows システム ツール」の「コンピューター」をクリックします。
 - Windows 7の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、「コンピューター」を表示します。
- 3 光学ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 必要に応じて「ファイルシステム」などを設定します。
- 5 「開始」をクリックし、以降は表示されるメッセージに従います。

2.5 通信

ここでは本ワークステーションの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.154) をご覧ください。

2.5.1 有線 LAN

LANケーブルを接続する方法については、「3.2.4 LANコネクタ」(→P.44) をご覧ください。LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ 有線 LANの構成

本ワークステーションは、OSから使用できる2つのLANコントローラーとiRMC用LANコントローラーを持っており、3つのMACアドレスを有します(図1)。

そのため、LANポート1とLANポート2の両方をネットワークに接続して利用する場合、3つのIPアドレスを必要とします。

本ワークステーションをネットワークに参加させるときには、次の重要事項を必ず守ってください。

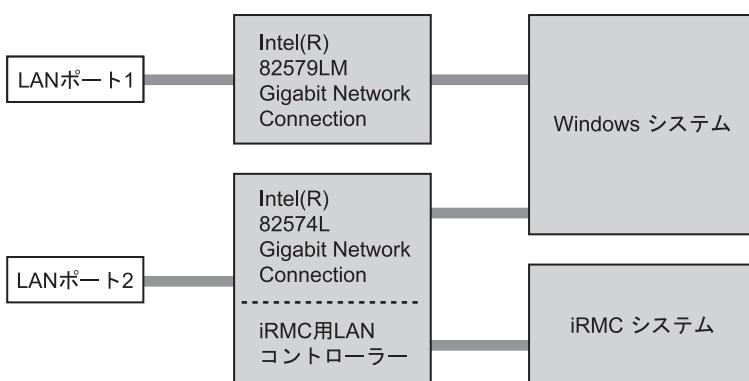


図1) CELSIUS C620のLANコントローラーとLANポートの接続体系

● LANポート1とLANポート2を別のサブネットに分けてください

LANポート2は、ワークステーションの動作監視などに使う目的の「管理用LANポート」です。LANポート2は、LANポート1とは別のサブネットに分け、管理向けのネットワークを別途構築するようにしてください。また、LANポート2上の2つのLANコントローラーも別のサブネットに分けることを推奨します。

管理用ネットワークを構築しない(iRMCのリモート管理機能を使用しない)場合は、LANポート2にはLANケーブルを接続しないか、BIOSセットアップの「IPMI管理」メニューの「iRMC LAN」を「使用しない」に設定変更してください。

BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

● リモート接続はLANポート1を使用してください

リモート接続などの業務用途には、必ずLANポート1を使用してください。

LANポート2は管理ネットワーク用のLANポートです。また、OSと接続できるLANコントローラーとiRMC用LANコントローラーが共有しているため、両者が同時に通信を行うと一時的な通信遅延（内部の切り替えによるレイテンシの増加）や通信速度の低下が起こることがあります。これは本装置の仕様です。

● 本ワークステーションの出荷時設定は「DHCP」です

本ワークステーションは、3つのLANコントローラーすべての出荷時設定が「DHCP」になっています。

重要

▶ 固定IPで運用する場合は、ネットワークに接続する前に必ずIPアドレスの指定を行ってください。

本ワークステーションを何も設定せずにネットワークに接続すると、同時に3つのIPアドレスを取得するため、複数の装置を同時に接続するとIPアドレス資源が枯渇するおそれがあります。

なお管理ネットワークを構築する場合は、監視対象装置の判別を容易にするため、固定IPでの運用を強く推奨します。

● 3つのLANコントローラーには、異なるIPアドレスを振り分けてください

本ワークステーションのLANポートは2つですが、3つのLANコントローラーを持っています。3つのLANコントローラーには、それぞれ別々のIPアドレスを振り分けてください。

同一のIPアドレスを割り当てる、IPアドレスの競合が発生し、ネットワーク障害の原因となります。

■ 注意事項

● Link速度を1Gbpsに固定して接続することはできません。

● Link速度を100/10Mbpsに固定して接続する場合、オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重/Half Duplex」に設定してください。「全二重/Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。

- ・Linkランプが点灯しない
- ・通信できない
- ・通信速度が異常に遅い

● 本ワークステーションに搭載されているLANデバイスには節電機能があります。この機能は、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れる、通信速度を下げるにより電力消費を抑えるものです。

ご購入時の設定では「Intel 82579LM Gigabit Network Connection」に対してこの機能は有効に設定されていますが、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合、Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。これにより問題がある場合は、「■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する」(→P.37)をご覧になり、この機能を無効に設定してください。

- ・LANデバイスの設定で、「リンク速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
- ・本ワークステーションを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているとき

■ LANデバイスの節電機能の設定を変更する

LANデバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1** 管理者アカウントでサインイン（ログオン）します。
- 2** コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
- 3** 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 4** 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection
- 5** 「詳細設定」タブをクリックします。
- 6** 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「オン」（有効）または「オフ」（無効）を選択します。
- 7** 「OK」をクリックします。

2.6 セキュリティチップ

セキュリティチップは、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、ハードディスクが盗まれても暗号を解析できません。

セキュリティチップに格納したデータにアクセスするには専用のインターフェースが必要です。

◀ 重要

- ▶ Windows 8の場合、Windowsのセットアップ後の再起動時に、ご購入時「無効」のセキュリティチップが「有効」となり、所有者パスワードが自動的に設定されます。「セキュリティ」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」で設定を確認してください。
詳しくは、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。
セキュリティチップをご利用になる前に、必ず所有者パスワードを変更し、パスワードのファイルを保存してください（自動的に設定されたパスワードは、わからなくとも変更できます）。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	40
3.2 コネクタの接続／取り外し	41

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本ワークステーションに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付けた後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからワークステーション本体の電源を入れ、ワークステーション本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 コネクタの接続／取り外し

ここでは、周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

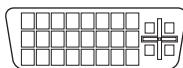
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「9.1 本体仕様」(→P.154)をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」(→P.40)をお読みになってから作業をしてください。

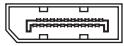
3.2.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかったり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前にご確認ください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずワークステーション本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2.2 ディスプレイコネクタ



デジタルディスプレイコネクタ (DVI-I)



DisplayPortコネクタ

ディスプレイを接続します。ワークステーション本体の電源を切ってから接続してください。

☞ 重要

- グラフィックスカードを搭載している場合、ワークステーション本体のディスプレイコネクタは使用できません。
- Quadro K4000／Quadro K2000／Quadro K600を選択した場合は、次の表でディスプレイとディスプレイコネクタの組み合わせを確認し、正しく接続してください。

ディスプレイの台数	DVI-I ^{注1}	DisplayPort1 ^{注2}	DisplayPort2 ^{注2注3}
1	○	—	—
	—	○	—
2	○	○	—
	—	○	○
3 ^{注3}	○	○	○

注1：アナログディスプレイを接続する場合は、別売のDVI-VGA変換アダプタを使用してください。

注2：デジタルディスプレイ(DVI)を接続する場合は、別売のDP-DVI変換ケーブルを使用してください。

注3：Quadro K4000／Quadro K2000を選択した場合のみ

■ 接続する

- 1** ワークステーション本体の電源を切ります。
- 2** ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）をお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
- 3** ディスプレイの電源を入れてから、ワークステーション本体の電源を入れます。

■ 取り外す

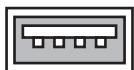
□ デジタルディスプレイコネクタ（DVI-I）

- 1** ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2** コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

□ DisplayPort コネクタ

- 1** ワークステーション本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2** コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

3.2.3 USB コネクタ



USB 対応周辺機器を接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USB コネクタに、USB 対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。

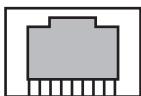
■ 取り外す

重要

- ▶ USB 対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いのUSB 対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. デスクトップ画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン をクリックします。
 2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.2.4 LAN コネクタ



LANケーブルを接続します。ワークステーション本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。

LEDの意味は、次のとおりです。



	左側LED (Link/Act)	右側LED (Speed)
1000Mbps で Link を確立	緑色点灯 ^注	オレンジ点灯
100Mbps で Link を確立	緑色点灯 ^注	緑色点灯
10Mbps で Link を確立	緑色点灯 ^注	消灯

注：データ転送中は緑色点滅

○ 重要

- ▶ 1000BASE-T の通信を行うためには、1000BASE-T に対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー 5（カテゴリー 5E）以上のLANケーブルを使用してください。

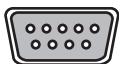
■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、まっすぐに引き抜きます。

3.2.5 シリアルコネクタ



シリアル対応周辺機器を接続します。ワークステーション本体の電源を切ってから接続または取り外しを行ってください。

■ 接続する

- 1** ワークステーション本体の電源を切ります。
- 2** シリアルコネクタにシリアル対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込み、コネクタのネジを締めてください。
- 3** シリアル対応周辺機器の電源を入れてから、ワークステーション本体の電源を入れます。

■ 取り外す

- 1** ワークステーション本体の電源を切ってから、シリアル対応周辺機器の電源を切ります。
- 2** コネクタのネジを緩め、ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

ソフトウェア

本ワークステーションにプレインストール（添付）
されているソフトウェアの概要や、インストール、
アンインストール方法を説明しています。

4.1	ソフトウェアの紹介	47
4.2	インストール	51
4.3	アンインストール	54

4.1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本ワークステーションにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ご購入時にインストールされているソフトウェアは、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に再インストールできるように、「ドライバーズディスク」などに格納されています。

また、ご購入時にはインストールされておらず、お使いになる前にCドライブなどからインストールするソフトウェアもあります。

各ソフトウェアの格納場所は、次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方

ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

ヘルプは、【F1】キーを押したり「ヘルプ」をクリックしたりすることで表示されます。

- インストール方法

「4.2 インストール」(→P.51)をご覧ください。

- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア

インターネット上のマニュアル (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/manual/>) の機能別のマニュアルをご覧ください。

4.1.1 一覧表の見かた

ソフトウェア一覧表の欄にある項目や記号について説明します。

- OSについて

お使いのワークステーションに該当するOSの欄をご覧ください。

- ・ Win8 : Windows 8

- ・ Win7 : Windows 7

- 提供形態について

- : ご購入時にインストール済み

- ◇ : Cドライブに格納 (ご購入時にはインストールされていません)

- ▲ : 「ドライバーズディスク」または各ソフトウェアのディスクに格納

- : 「トラブル解決ナビディスク」に格納

- － : 搭載されていないか、対象となる機種がありません

「ドライバーズディスク」や各ソフトウェアのディスクは、本ワークステーションのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。

4.1.2 セキュリティ関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」(→P.47) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8	Win7
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、表示できない主旨のメッセージ画面が自動的に表示されます。フリーソフトのため、サポートは行っておりません。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇
Portshutter Premium	USBポート（内蔵USBデバイスを含む）や光学ドライブなどの接続ポートの有効・無効を設定します。不要な機器の使用を制限することで、情報漏えいを防止できます。詳しくは、「トラブル解決ナビ」内のマニュアルをご覧ください。	▲	▲
マカフィー マルチアクセス	コンピューターウィルスを検出・駆除します。無償サポート、無償アップデートの期間は、使用開始から90日間です。 インストールの方法については「4.2.2 「マカフィー マルチアクセス」のインストール」(→P.53) を、その他のお問い合わせは「8.3.1 お問い合わせ先」(→P.151) をご覧ください。	◇	◇
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「ハードディスクデータ消去」(→P.164) をご覧ください。	■	■

4.1.3 サポート関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」(→P.47) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8	Win7
パソコン乗換ガイド	今までお使いになっていたワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行することができます。 ・「パソコン乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	▲	▲
UpdateAdvisor (本体装置)	お使いのワークステーションのドライバー、添付ソフトウェアのアップデート版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 すべてのアプリ (Windows 8) またはスタートメニュー (Windows 7) から起動します。 また、「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」を利用してお使いのワークステーションの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	●	●
ステータスモニター	本ワークステーションの状態を監視します。デスクトップ画面にアラーム表示と Windows イベントログにアラームの内容を記録します。詳しくは「6.6.3 ステータスモニター」(→ P.102) をご覧ください。	◇	◇
富士通ハードウェア 診断ツール	ハードウェアに障害が発生していないか診断できます。 詳しくは、「8.1.7 診断プログラムを使用する」(→P.131) をご覧ください。	■	■

4.1.4 ユーティリティ

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」(→P.47) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8	Win7
Adobe Reader	PDFファイルを表示、閲覧、印刷できます。 フリーソフトのため、サポートはしておりません。お問い合わせは、「8.3.1 お問い合わせ先」(→P.151) をご覧ください。	—	●
Easy Backup2	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。 インストールの方法については、「4.2 インストール」(→P.51) をご覧ください。	▲	▲
F-Launcher	目的のソフトウェアを素早く起動するためのツールです。よく使用するソフトウェアを登録して使用します。	▲	—
Skype	ユーザーどうしの通話、ビデオ通話、インスタントメッセージやファイル送信ができます。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」(→P.151) をご覧ください。	—	●
ディスプレイの電源を切る	簡単な操作でディスプレイの電源を入れたり、切ったりできます。詳しくは、「2.3.4 「ディスプレイの電源を切る」」(→P.27) をご覧ください。	●	●
ゆったり設定2	ワークステーションをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	—	▲

4.1.5 CD/DVD関連のソフトウェア

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」(→P.47) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8	Win7
Roxio Creator	ワークステーションのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、「2.4.5 ディスクに書き込む」(→P.33) およびソフトウェアのヘルプをご覧ください。	●	●

4.1.6 メールソフト

表内の記号については「4.1.1 一覧表の見かた」(→P.47) をご覧ください。

名称	概要／提供形態	Win8	Win7
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。 詳しくは、「8.3.1 お問い合わせ先」(→P.151) をご覧ください。	—	●

4.2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。

データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアル、ソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

※ 重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を確認し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。
- ▶ 管理者アカウントでWindowsにサインイン（ログオン）してからインストールしてください。

4.2.1 「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使ってインストールできます。

- ・ ドライバーズディスク
- ・ トラブル解決ナビディスク

※ 重要

- ▶ これらのディスクは、本ワークステーションのリカバリ領域に格納されています。ディスクがお手元にない場合はリカバリ領域からディスクを作成してください。作成方法については『リカバリガイド』をご覧ください。
- ▶ ドライバーやソフトウェアのアップデート版は、弊社アップデートサイトに公開されています。必要に応じてインストールしてください。なお、本ワークステーションに搭載されているすべてのドライバーやソフトウェアが公開されているわけではありません。

1 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

 **POINT**

- ▶ Windows 8で画面右上にメッセージが表示された場合は、そのメッセージをクリックし、続けて「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ Windows 7で「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 次の操作を行います。
 - Windows 8の場合
 1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
 2. 「コンピューター」をクリックします。
 - Windows 7の場合
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」をクリックします。
 3. 「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックします。

2 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

3 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

4 「種別」に「カスタムメイド」または「任意」を選択します。

5 インストールするソフトウェアを選択します。

「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、インストールしてください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

● Portshutter Premium

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

4.2.2 「マカフィー マルチアクセス」のインストール

POINT

- ▶ 「マカフィー マルチアクセス」をインストールしていると、ご使用のソフトウェアによっては正常にインストールされなかったり、不具合が発生したりすることがあります。

- 1 デスクトップにある「マカフィー マルチアクセスインストール」アイコンをダブルクリックします。

「マカフィー マルチアクセスインストール」アイコンは、本ワークステーションのセットアップ後「必ず実行してください」を実行すると表示されます。

- 2 インストールが完了したら本ワークステーションを再起動します。

重要

- ▶ ウィルス定義ファイルは、常に最新の状態でお使いください。詳しくは「マカフィー マルチアクセス」のヘルプをご覧ください。
- ▶ ウィルス定義の更新は、システム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 定義を更新するには、インターネットに接続できる環境が必要です。

4.2.3 「i-フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。次のファイルをご覧になり、インストールしてください。

C:\Fujitsu\bundle\i-Filter\Readme.txt

4.3 アンインストール

4.3.1 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始めること
 - DLLファイルは削除しないこと
- アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。
「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか？」

このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

4.3.2 アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウ→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

5

第5章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

5.1 BIOSセットアップ	56
5.2 BIOSセットアップの操作のしかた	57
5.3 設定事例集	61
5.4 ME BIOS Extension	70

5.1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。次のような場合にBIOSセットアップの設定を変更します。

- ・特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワードを設定するとき
- ・起動デバイスを変更するとき
- ・セキュリティチップの設定を変更するとき
- ・Wakeup on LANの設定を変更するとき
- ・Wakeup on RTC機能の設定を変更するとき
- ・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOSセットアップの設定は、必ず電源を切ってから行ってください。電源の切り方は、「2.3.2 電源を切る」(→P.24)をご覧ください。
- ▶ BIOSセットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。
- ▶ 起動時の自己診断中は、電源を切らないでください。

5.2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの起動と終了、および基本的な操作方法について説明しています。

5.2.1 BIOS セットアップを起動する

1 【F2】キーまたは【Delete】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。

「FUJITSU」のロゴが表示された後、BIOS セットアップ画面が表示されたら、パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.63）し、すぐに【F2】キーまたは【Delete】キーを押してください。

2 【F2】キーまたは【Delete】キーを離します。

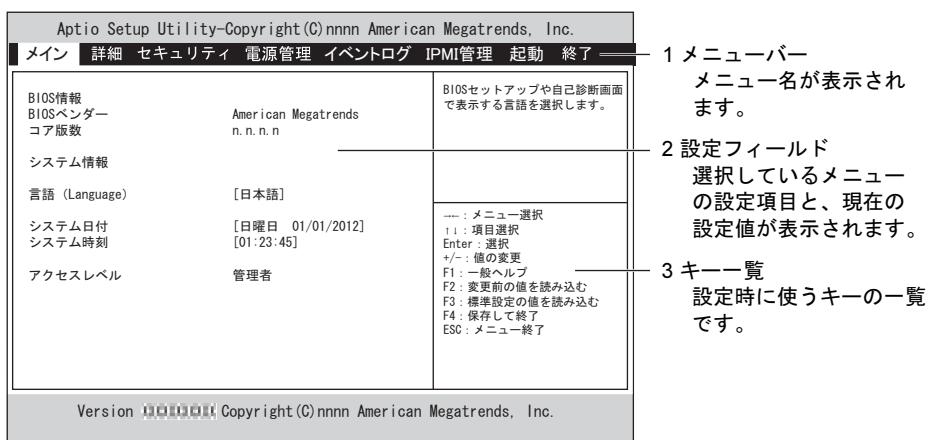
POINT

- Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

5.2.2 BIOS セットアップ画面

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

各項目についての説明は「項目ヘルプ」を、操作方法は「5.2.4 各キーの役割」（→P.58）をご覧ください。



5.2.3 BIOSセットアップメニュー

BIOSの各種設定を行います。

本ワークステーションのBIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。

5.2.4 各キーの役割

BIOSセットアップで使う、主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOSセットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーまたは【Enter】キーを押します。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。 【Page Up】【Page Down】キーを押すと、ページの先頭または最後にカーソルを移動することができます。
【-】【+】キー	各項目の設定値を変更します。
【Esc】キー	「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	<ul style="list-style-type: none">▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【F2】キー	変更前の値を読み込みます。
【F3】キー	標準設定値を読み込みます。
【F4】キー	変更した設定値を保存してBIOSセットアップを終了します。

5.2.5 BIOSセットアップを終了する

■ 変更を保存して終了する

- 1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2~3回押してください。
- 2 「変更を保存して終了する（再起動）」または「変更を保存して終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

■ 変更を保存せずに終了する

- 1 「終了」メニューを選択します。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで【Esc】キーを2~3回押してください。
- 2 「変更を保存せずに終了する（再起動）」または「変更を保存せずに終了する」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 何も変更していない場合は、メッセージは表示されずにBIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

- 3 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了し、Windowsが起動します。

5.2.6 起動メニューを使用する

起動するデバイスを選択して本ワークステーションを起動します。「トラブル解決ナビディスク」から本ワークステーションを起動する場合などに使用します。

- 1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。
パスワード入力画面が表示されたらパスワードを入力（→P.63）し、すぐに【F12】キーを押してください。

POINT

- ▶ Windowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

- 3 カーソルキーで起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。

POINT

- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブにディスクをセットしてから操作してください。
- ▶ 光学ドライブから起動する場合、光学ドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
光学ドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、光学ドライブから正常に起動できない場合があります。
- ▶ 起動メニューを終了して通常の方法で起動する場合は、【Esc】キーを押してください。

5.3 設定事例集

ここでは、よく使われる設定について、その設定方法を記載しています。お使いの状況にあわせてご覧ください。

- ・ BIOSのパスワード機能を使う (→P.61)
- ・ 起動デバイスを変更する (→P.64)
- ・ セキュリティチップの設定を変更する (→P.65)
- ・ Wakeup on LAN を有効にする (→P.66)
- ・ Wakeup on RTC を有効にする (→P.67)
- ・ イベントログを確認する (→P.68)
- ・ イベントログを消去する (→P.68)
- ・ ご購入時の設定に戻す (→P.69)

5.3.1 BIOSのパスワード機能を使う

■ パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

□ 管理者用パスワード

システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

□ ユーザー用パスワード

一般利用者用のパスワードです。管理者用パスワードが設定されている場合のみ設定できます。

ユーザー用パスワードでBIOSセットアップを起動した場合は、設定変更のできる項目が制限されます。制限された設定項目はグレー表示になり、変更できません。

POINT

▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ ハードディスクパスワード

本ワークステーションのハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。管理者用パスワードを設定してからハードディスクパスワードを設定することをお勧めします。

■ パスワード入力が必要となる場合

管理者用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。

- ・ BIOS セットアップを起動するとき

ユーザー用パスワードを設定することにより、次の場合に入力が必要となります。

- ・ 本ワークステーションを起動するとき
- ・ 休止状態からレジュームするとき

必要に応じて、管理者用またはユーザー用パスワードを入力してください。

■ パスワードを設定／変更／削除する

☞ 重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定する場合は、電源オフ状態から作業を開始してください。本ワークステーションを再起動して BIOS セットアップを起動した場合、ハードディスクパスワードを設定することはできません。
- ▶ 「管理者用パスワード」を変更するには、BIOS セットアップを「管理者用パスワード」で起動する必要があります。
- ▶ パスワードの設定・変更・削除は、「終了」メニューの「変更を保存して終了する」または「変更を保存して終了する（再起動）」を選択して BIOS セットアップを終了すると、反映されます。「終了」メニューにある他の項目を選択すると、変更が破棄されるのでご注意ください。

1 ハードディスクパスワードを設定する場合は、次の操作を行います。

1. 本ワークステーションの電源が入っている場合は、シャットダウンします。
2. BIOS セットアップを起動します（→P.57）。

2 「セキュリティ」メニューで次の項目を選択し、【Enter】キーを押します。

● 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する場合

- ・「管理者用パスワード設定」
- ・「ユーザー用パスワード設定」

● ハードディスクパスワードを設定する場合

- ・「ハードディスクセキュリティ設定」の「ユーザーパスワード設定」

3 すでにパスワードが設定されている場合は、現在のパスワードを入力します。

「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。

4 新しいパスワードを入力します。

管理者用パスワード／ユーザー用パスワードは3～32桁、ハードディスクパスワードは1～32桁まで入力することができます。

パスワードを削除する場合は、何も入力せずに【Enter】キーを押します。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移ります。

☞ POINT

- ▶ パスワードには、アルファベットと数字を使用できます。大文字、小文字は区別されません。
- ▶ 数字だけでなく英字を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫してください。
- ▶ 入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。
- ▶ コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードを解除してください。パスワードがかかった状態では、保証期間にかかるはず、修理は有償となります。

- 5** 手順4で入力したパスワードをもう一度入力します。
パスワードが変更されます。

 **POINT**

- ▶ 再入力したパスワードが間違っていた場合は、警告メッセージが表示されます。
【Enter】キーを押してウィンドウを消去し、手順4からやり直してください。

- 6** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

■ パスワードを使用する

設定したパスワードは、BIOSセットアップの設定により、次の場合に入力が必要になります。

 **POINT**

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、エラーメッセージが表示されて警告音が鳴ります。
この場合は、電源ボタン押して本ワークステーションの電源を切ってください。その後、
10秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

- 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード
 - ・ BIOSセットアップを起動するとき
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき
 - ・ 休止状態からリジュームするとき

次の入力画面が表示されたら、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードを入力してください。

———— パスワードを入力して下さい —————

—

- ハードディスクパスワード
 - ・ 本ワークステーションを起動するとき
- 次の入力画面が表示されたら、対応するドライブのハードディスクパスワードを入力してください。

———— HDD —————

ハードディスクのパスワードを入力してください：

—

■ パスワードを忘れてしまったら

◀ 重要

- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的とした強固なセキュリティです。ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、修理をしてもハードディスク内のデータやプログラムは復元できず、消失してしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

□ 対処が可能な場合

- ユーザー用パスワードを忘れてしまった
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

□ 対処が不可能な場合

次の場合は、修理が必要です。「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

- 管理者用パスワードを忘れてしまった
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった

5.3.2 起動デバイスを変更する

本ワークステーションの起動時にOSを読み込むデバイスの順序は、「起動」メニューの「起動デバイスの優先順位」で設定します。

「起動デバイス」に設定されている順にOSを検索します。
変更したデバイスの順序は、再起動後に反映されます。

- 1 「起動」メニューを選択します。
- 2 「起動デバイスの優先順位」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 設定を変更したい順位を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 設定したいデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスの順位が入れ替わります。
- 5 希望する順番になるまで手順3～4を繰り返します。
- 6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

5.3.3 セキュリティチップの設定を変更する

■ セキュリティチップの状態を変更する

管理者用パスワードを設定してから、次の手順でセキュリティチップの設定を変更してください。

□ TPM Enabled Status および TPM Active Status を変更する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「TPM状態の変更」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「変更する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「TPM状態の変更内容」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 6 「Enable Take Ownership」もしくは「Disable Take Ownership」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 7 「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 8 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。
起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

□ TPM Owner Status を変更する

- 1 「詳細」メニューを選択します。
- 2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「TPM状態の変更内容」を選択し、【Enter】キーを押します。

POINT

▶ 「TPM状態の変更内容」を選択するためには、「TPM状態の変更」が「変更する」に設定されている必要があります。

- 4 「Enable Take Ownership」もしくは「Disable Take Ownership」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。

6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

■ セキュリティチップをクリアする

1 「詳細」メニューを選択します。

2 「TPM（セキュリティチップ）設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「TPM状態の変更内容」を選択し、【Enter】キーを押します。

POINT

▶ 「TPM状態の変更内容」を選択するためには、「TPM状態の変更」が「変更する」に設定されている必要があります。

4 「クリア」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、【Enter】キーを押します。

確認メッセージが表示されます。

6 「はい」を選択し、【Enter】キーを押します。

起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

■ ソフトウェアからの変更を反映する

Windows上のソフトウェアを使ってセキュリティチップの状態を変更する場合、本ワークステーションの再起動後に、変更が有効になっていることがあります。

再起動を要求するメッセージが表示されたら、本ワークステーションを再起動してください。起動時の自己診断が実行された後、セキュリティチップの状態が変更されます。

5.3.4 Wakeup on LANを有効にする

WoL機能とは、他のコンピューターから有線LAN経由で本ワークステーションを起動・リジュームする機能です。WoL機能には、電源オフ状態から起動する機能と、省電力状態からリジュームする機能があります。ここでは、電源オフ状態から起動するための設定について説明します。電源を切る方法については、「2.3.2 電源を切る」(→P.24)をご覧ください。省電力状態からリジュームする機能については、「■ WoL機能によるリジュームの設定を変更する」(→P.23)をご覧ください。

1 「電源管理」メニューを選択します。

2 「ウェイクアップ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「LAN」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。

- 5 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。
「5.2.5 BIOS セットアップを終了する」(→P.59)
Windows 8 の場合は、続けて次の操作を行います。
- 6 コントロールパネルの「電源オプション」を開きます。
「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」
- 7 ウィンドウ左の「スリープ解除のパスワード保護」、または「電源ボタンの動作を選択する」をクリックします。
- 8 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
- 9 「シャットダウン設定」の「高速スタートアップを有効にする（推奨）」のチェックを外します。
- 10 「変更の保存」をクリックします。

5.3.5 Wakeup on RTC を有効にする

Wakeup on RTC 機能とは、電源オフ状態から指定の時刻に本ワークステーションを起動する機能です。

- 1 「電源管理」メニューを選択します。
- 2 「ウェイクアップ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「時刻」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「使用する」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・時
 - ・分
 - ・秒
 - ・モード
 - ・日（「モード」が「毎月」時のみ設定可能）
- 6 指定する時刻をそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。
- 7 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。
「5.2.5 BIOS セットアップを終了する」(→P.59)

☞ 重要

- ▶ iRMC のタイマー（「6.3.2 電源投入時刻の設定」(→P.88)）と、本設定は同期していません。それぞれ独立したタイマーで制御しています。

5.3.6 イベントログを確認する

- 1 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの表示」を選択し、【Enter】キーを押します。
記録されているイベントログが表示されます。

イベントログに記録されるメッセージについては、「8.2.5 エラーメッセージ一覧」(→P.148) の「■ BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。

5.3.7 イベントログを消去する

- 1 「イベントログ」メニューを選択します。
- 2 「イベントログ設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「イベントログの消去」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 次回起動時に消去する場合は「次回起動時に消去します」を、毎回起動時に消去する場合は「毎回起動時に消去します」をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。
「5.2.5 BIOS セットアップを終了する」(→P.59)

POINT

- ▶ 「イベントログの消去」に「次回起動時に消去します」を選択した場合、再起動すると設定値は「いいえ」になります。

5.3.8 ご購入時の設定に戻す

- 1** 「終了」メニューを選択します。
- 2** 「標準設定値を読み込む」を選択し、【Enter】キーを押します。
確認メッセージが表示されます。
- 3** 「はい」を選択して【Enter】キーを押します。
次の項目を除くすべての設定が、ご購入時の設定値に戻ります。
●「標準設定値を読み込む」で変更されない項目
 - ・日時の設定
 - ・言語設定
 - ・管理者用パスワード
 - ・ユーザー用パスワード
 - ・ハードディスクパスワード
 - ・起動デバイスの優先順位
 - ・「IPMI管理」メニュー配下の項目
- 4** Windows 8の場合は、次の設定項目を変更します。
 - ・「ネットワークスタック」：使用する
 - ・「セキュアブート機能」：使用する
- 5** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

5.4 ME BIOS Extension

お使いのワークステーションには、インテル® AMT機能などを提供するME (Management Engine) BIOS Extensionが搭載されています。ここでは、ME BIOS Extensionの設定を行うMEセットアップについて説明します。

MEセットアップは、本ワークステーションにおいて動作確認済みの管理ソフトウェア（別売の「Systemwalker」など）を搭載している場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。AMT機能などをお使いにならない場合は、初期パスワードのみ変更してください。本ワークステーションご購入時のパスワードのままでいると、第三者にAMT機能などを使用されるおそれがあります。

☞ 重要

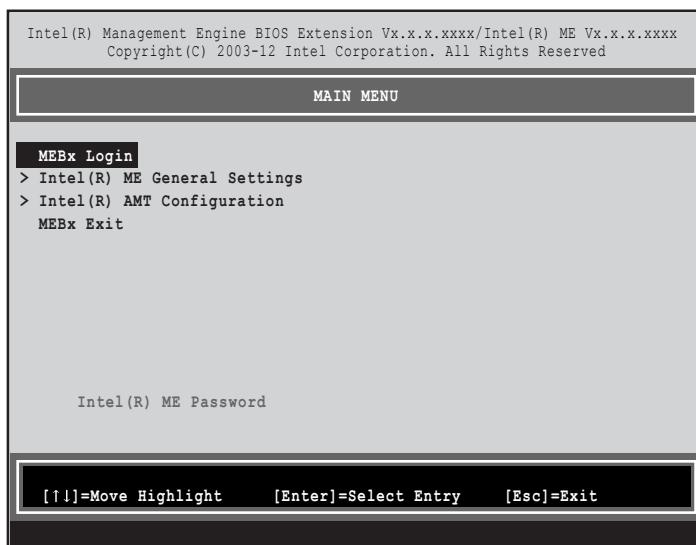
- ▶ Remote Assistance機能をご利用になる場合は、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】 + 【Alt】 + 【F1】キーを押してください。通常は、本機能をお使いになれませんので操作しないでください。Remote Assistanceをご利用になる場合は、管理者の指示に従ってください。
- ▶ 修理などによりメインボードを交換された場合は、パスワードを含むMEセットアップの設定値が出荷時の状態に戻る場合があります。その場合は、MEセットアップを設定し直してください。

5.4.1 初期パスワードを変更する

※ 重要

- ▶ パスワードは、必ず変更してください。ご購入時のパスワードのままでいると、第三者に AMT 機能などを使用されるおそれがあります。
- ▶ 変更したパスワードを忘ると ME セットアップの設定が変更できなくなります。その場合、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「AMT 設定」の「AMT/ME 設定のクリア」を「使用する」に設定することにより、ご購入時の状態に戻してから、パスワードを設定し直してください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】+【P】キーを押します。



POINT

- ▶ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「AMT 設定」の「ME 設定メニュー」を「Enter MEBx Setup」に変更することにより、次回起動時 Intel(R) Management Engine BIOS Extensions メニューに入ることもできます。BIOS セットアップについては、「5.2.1 BIOS セットアップを起動する」(→P.57) をご覧ください。

- 3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。



4 「admin」と入力し、【Enter】キーを押します。

出荷時のパスワードは「admin」に設定されています。

POINT

- ▶ 「Invalid Password - Try Again」と表示された場合、入力したパスワードが間違っています。【Enter】キーを押してメッセージを消去し、キーボードのCapsLockインジケーターを確認して、再度パスワードを入力してください。
- ▶ パスワードを3回間違えると「Max password attempts exceeded, system will reboot」と表示され、【Enter】キーを押すと本ワークステーションが再起動します手順2からやり直してください。

5 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

パスワードは、次の条件をすべて満たすもので設定してください。

- ・8文字以上32文字以下
- ・1文字以上の数字を含む
- ・1文字以上の特殊文字（例：@、\$、&）を含む
- ・1文字以上の小文字のアルファベットを含む
- ・1文字以上の大文字のアルファベットを含む

POINT

- ▶ MEセットアップでは、次のような特殊文字をキーボードの刻印どおりに入力することはできません。
 - ・次の文字を入力する場合は、対応するキーを単独で押してください。

入力する文字	=	[]	'	\
対応するキー	^	@	[:]

・次の文字を入力する場合は、【Shift】キーを押しながら対応するキーを押してください。

入力する文字	@	^	&	*	()	-	+	{	}	:	"	
対応するキー	2	6	7	8	9	0	-	^	@	[;	:]

- ▶ 「:」「,」「"」は使用できません。また、「_」および「」（スペース）は使用できますが特殊文字の条件を満たしません。

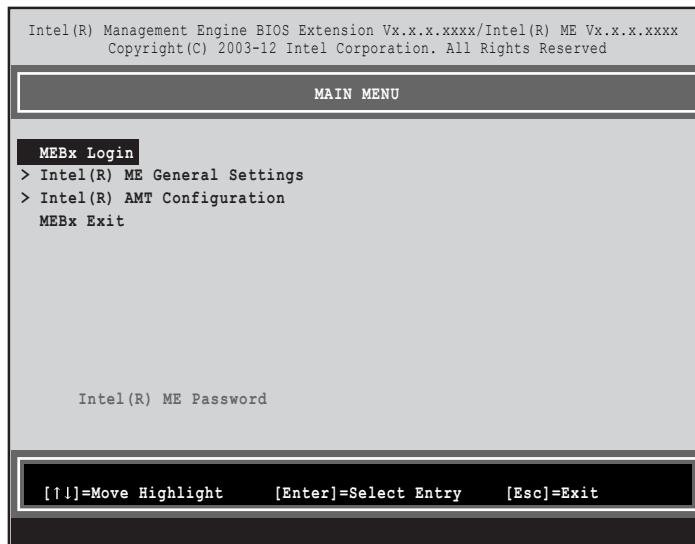
6 「Verify password」と表示されたら、手順5で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

POINT

- ▶ 「Error - Intel(R) ME password change rejected」と表示された場合、新しいパスワードが手順5の条件を満たしていません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、文字数と使用している文字を確認して、手順5からやり直してください。
- ▶ 「Password Mismatch - Abort Change」と表示された場合、手順5と手順6で入力したパスワードが一致していません。【Enter】キーを押してエラーメッセージを消去し、手順5からやり直してください。

5.4.2 ME セットアップを起動する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【Ctrl】+【P】キーを押します。
ME セットアップログイン画面が表示されます。



POINT

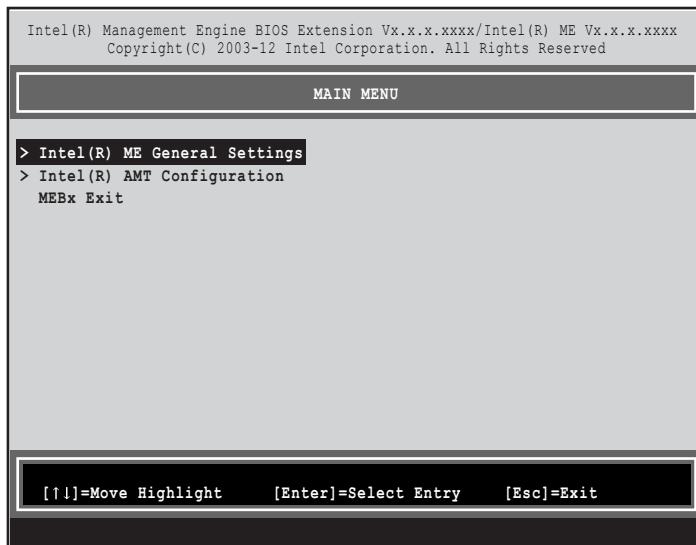
- ▶ BIOS セットアップの「詳細」メニューの「AMT 設定」の「ME 設定メニュー」を「Enter MEBx Setup」に変更することにより、次回起動時 Intel(R) Management Engine BIOS Extensions メニューに入ることもできます。BIOS セットアップについては、「5.2.1 BIOS セットアップを起動する」(→P.57) をご覧ください。

- 3 「MEBx Login」を選択し、【Enter】キーを押します。
パスワード入力画面が表示されます。



4 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

MEセットアップ画面が表示されます。



重要

- ▶ MEセットアップを初めて起動したときは、パスワードの変更画面が表示されます。ご購入時のパスワードを変更しないと、MEセットアップは利用できません。

5 画面上部のメニューからME BIOS Extensionの設定を行います。

5.4.3 MEセットアップを終了する

1 「MAIN MENU」を表示します。

「MAIN MENU」が表示されるまで【Esc】キーを押してください。

2 カーソルキーで「MEBx Exit」を選択し、【Enter】キーを押します。

3 「Are you sure you want to exit? (Y/N)」と表示されたら、【Y】キーを押します。
MEセットアップが終了し、OSが起動します。

5.4.4 メニュー詳細

ここでは、MEセットアップの主なメニュー項目について説明します。

■「Intel(R) ME General Settings」メニュー

設定項目	備考
Change Intel(R) ME Password	MEセットアップのパスワードを変更します。 「5.4.1 初期パスワードを変更する」(→P.71) の手順5以降をご覧になり、パスワードを変更してください。
Power Control	<p>省電力状態（スリープ、休止状態）や電源オフ状態におけるME機能の有効／無効を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Desktop: ON in S0 □ Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5
Idle Timeout ^{注2}	「Intel(R) ME ON in Host Sleep States」が「Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5」に設定されている場合に、本ワークステーションが省電力状態または電源オフに移行してからIntel® ME機能がオフ状態になるまでの時間を、分単位で設定します。

注1：「Intel(R) AMT Configuration」メニューの「Activate Network Access」を実行すると、本設定は「Desktop: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5」に自動的に変更されます。必要に応じて再設定を行ってください。

注2：本設定を変更すると一部の管理ソフトウェアで正常に動作しなくなる場合があります。管理ソフトウェアにて動作が確認できている場合のみ、管理ソフトウェアのマニュアルに従って設定してください。

■「Intel(R) AMT Configuration」メニュー

設定項目	備考
Manageability Feature Selection	本機能を使用する場合は「Enabled」に設定します。 「Enabled」にすると、次のメニューが表示されるようになります。
Network Setup	Intel® MEのネットワーク設定を変更します。お客様の環境にあわせて設定してください。
Activate Network Access ^注	ネットワークアクセスを有効にし、Intel® MEのネットワークインターフェースを使用可能にします。
Unconfigure Network Access	
Full Unprovision	ネットワークアクセスを無効にし、すべてのネットワーク設定をご購入時の状態に戻します。
Partial Unprovision	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク設定を残したまま、ネットワークアクセスを無効にします。 ネットワークアクセスが有効になっている場合のみ表示されます。

注：・「Activate Network Access」を実行しない場合、「Network Setup」で設定した内容は有効になりません。
・「Activate Network Access」を実行した後は、本メニューは表示されなくなります。

6

第6章

iRMC

iRMC（リモートマネージメントコントローラ）について説明しています。

6.1	iRMC（リモートマネージメントコントローラ）	77
6.2	iRMCユーザー アカウント	80
6.3	電源管理	87
6.4	IDランプの遠隔操作	90
6.5	ネットワーク設定	91
6.6	センサー確認	99
6.7	システムイベントログ（SEL）	107
6.8	E-mail通知	109

6.1 iRMC (リモートマネージメントコントローラ)

本ワークステーションには、iRMC (リモートマネージメントコントローラ) が搭載されています。

iRMCには、ワークステーション本体のOSや電源の状態に関係なく、温度やファンの監視や、故障時には保守ランプを点灯させて通知する機能が搭載されています。また、iRMCにはネットワークからログインすることができ、次の項目を確認できます。

- ・ワークステーションのファンの状態確認
- ・ワークステーションのセンサーの温度確認
- ・ワークステーションのシステムイベントログ（エラーログ）

◀ 重要

- ▶ 本書で説明している設定項目以外は、設定を変更しないでください。
設定を変更した場合、本ワークステーションの状態が確認できることや、正常に動作しないことがあります。

6.1.1 IPアドレスの設定

iRMCのIPアドレスを設定します。

◀ 重要

- ▶ 「6.5 ネットワーク設定」（→P.91）のネットワーク設定もご覧ください。後から設定したもののが優先されます。

- 1 BIOSセットアップを起動します。
「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」（→P.57）
- 2 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 3 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 「IPアドレス」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 5 「固定アドレスを使う」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 6 次の設定をそれぞれ選択し、【Enter】キーを押します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・ゲートウェイアドレス
- 7 指定するネットワークアドレスをそれぞれ入力し、【Enter】キーを押します。

- 8** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

6.1.2 iRMCにログインする

ネットワークを利用して監視するコンピューターから、本ワークステーションに接続します。

☞ 重要

- ▶ LANコネクタ2 (Intel(R)82574L Gigabit Network Connection) に接続したネットワークからのみ、接続することができます。

- 1** iRMCにログインするコンピューターを、iRMCと同じネットワークに接続します。

☞ 重要

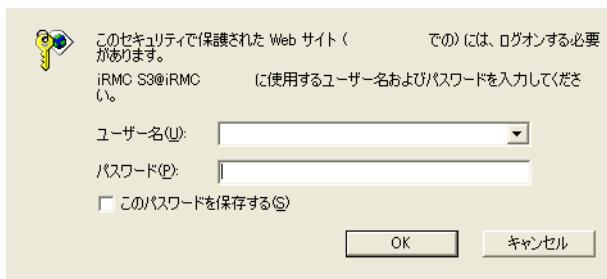
- ▶ iRMCをお使いになる場合は、LANコネクタ2 (→P.12) を使用します。

- 2** ログインするコンピューターからWebブラウザーを起動します。

- 3** Webブラウザーのアドレス欄に、設定したIPアドレスを入力します。
「6.1.1 IPアドレスの設定」(→P.77) で設定したIPアドレスを入力してください。

- 4** 【Enter】キーを押します。

パスワード入力画面が表示されます。



- 5** 次のユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

- ・ユーザー名 (出荷時) : admin
 - ・パスワード (出荷時) : admin
- iRMCにログインします。

POINT

- ▶ ユーザーアカウントは設定することができます。詳しくは、「6.2 iRMCユーザーアカウント」(→P.80) をご覧ください。

6.1.3 言語の変更

iRMCの画面表示を、英語から日本語に変更します。

- 1 iRMCにログインします (→P.78)。
- 2 画面右上の  をクリックし、画面表示を日本語に変更します。
- 3 画面左部のツリーメニューから、「iRMC S3」の「+」をクリックします。
下位メニューが表示されます。
- 4 表示された「iRMC S3情報」をクリックします。



- 5 「iRMC S3 その他のオプション」の「デフォルト言語」の項目を日本語に変更します。

iRMC WEB-UIに接続したときの言語が日本語に変更されます。

English	言語を英語 (English) に設定します。
日本語	言語を日本語 (Japanese) に設定します。

重要

- ▶ 言語の変更は、iRMC S3設定変更権限があるアカウントで実施してください。
設定変更権限については、「6.2.1 新しいユーザー アカウントの作成」(→P.81) をご覧ください。

6.2 iRMC ユーザーアカウント

本ワークステーションは、iRMCのすべての設定許可を持つ「管理者アカウント」が用意されています。

出荷時の「管理者アカウント」の設定

- ・ ユーザー名 : admin
- ・ パスワード : admin

重要

- ▶ 「管理者アカウント」は、iRMCの様々な設定を変更する権限を持っています。最初にログインしたときになるべく早く新しい「管理者アカウント」を作成して、出荷時の「管理者アカウント」のパスワードを変更するか、無効化することをお勧めします。出荷時の設定のままでいると、第三者に勝手にiRMCの設定を変更されるおそれがあります。
- ▶ パスワードを変更する場合は、変更後のパスワードを絶対に忘れないようにしてください。
- ▶ ユーザーアカウント情報の編集は、ユーザーアカウントの変更権限を持つアカウントから実行してください。すべてのユーザーアカウントからユーザーアカウントの変更権限を削除すると、ユーザーアカウントの変更ができなくなります。
- ▶ すべてのユーザーアカウントを無効にした場合、iRMCにアクセスできなくなります。すべてのユーザーを無効にしないでください。
- ▶ iRMCへのログインは、LANアクセス権が必要となります。すべてのユーザーアカウントからLANアクセス権限が削除された場合、iRMCのWEB-UIにログインできなくなります。
- ▶ ユーザーアカウント／パスワードの忘却、およびユーザーアカウントの設定ミスなどにより、出荷時のユーザーアカウントに戻す場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。修理は、保証期間にかかる有償になります。

6.2.1 新しいユーザーアカウントの作成

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「iRMC S3ユーザ管理」をクリックします。



- 4 「ユーザの新規作成」をクリックします。
新規にユーザー ID を作成する場合は、ユーザー ID 3 から作成されます。
ユーザー ID 1 は iRMC の仕様でリザーブ ID として予約されており、使用できません。
- 5 次の項目を入力します。

<input checked="" type="checkbox"/> ユーザを有効にする: <input checked="" type="checkbox"/> 名前: <input type="text"/> パスワード: <input type="password"/> 確認用パスワード: <input type="password"/> ユーザの説明: <input type="text" value="NewUser Description"/> 使用シェル(Textアクセス): <input type="text" value="Remote Manager"/> LANアクセス権限: <input type="text" value="User"/> シリアルアクセス権限: <input type="text" value="User"/> ユーザ アカウント変更権限: <input type="checkbox"/> iRMC S3 設定変更権限: <input type="checkbox"/> AVR使用権限: <input type="checkbox"/> リモートストレージ使用権限: <input type="checkbox"/> <input type="button" value="適用"/>	
ユーザを有効にする	作成するユーザーアカウントを有効にする場合に、チェックを付けます。チェックを外すと、作成したユーザーアカウントが無効になります。
名前	作成するアカウントのユーザーネームを入力します。 半角英数字で16文字以内。

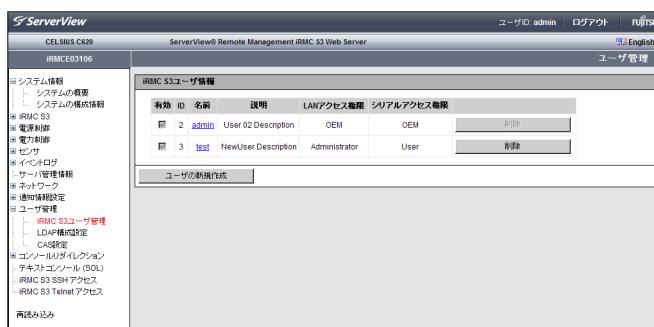
パスワード	アカウントのパスワードを入力します。 半角英数字（大文字／小文字）で20文字以内。 ※ パスワードは必ず設定してください。
確認用パスワード	確認のため、上記のパスワードを再入力します。
ユーザの説明	作成するユーザーの一般的な説明を入力してください。 半角で31文字以内。または、全角で15文字以内。
使用シェル (Textアクセス)	本項目は変更しないでください。 初期値 : Remote Manager ※ 本ワークステーションはTextアクセスをサポートしていません。
LANアクセス権限	ユーザーがLAN経由（WEB-UI）でiRMCに接続するときの権限を選択してください。 初期値 : User アクセス権は「User」が最も低く、「Operator」、「Administrator」、「OEM」の順に権限が高くなります。 ※ 権限が「User」の場合、次の機能は使用できません。 ・システムイベントログ（SEL）の削除
シリアルアクセス 権限	本項目は変更しないでください。 初期値 : User ※ 本ワークステーションは、シリアルポートからの接続はサポートしていません。
ユーザーアカウント 変更権限	iRMCのユーザーアカウントの設定を変更する権限を指定します。ユーザーアカウント設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値 : チェックなし
iRMC S3設定 変更権限	iRMCの設定を変更する権限を指定します。 iRMCの設定を変更されたくない場合は、本項目のチェックを外してください。 初期値 : チェックなし
AVR使用権限	本項目は変更しないでください。 初期値 : チェックなし ※ 本ワークステーションはAVRをサポートしていません。
リモートストレージ 使用権限	本項目は変更しないでください。 初期値 : チェックなし ※ 本ワークステーションは、リモートストレージ機能をサポートしていません。

6 「適用」をクリックして、アカウントを作成します。

6.2.2 ユーザーアカウント名／パスワードの設定

新規作成したユーザー アカウント／既存のユーザー アカウントのユーザー名および、パスワードを変更します。

- 1 iRMC にログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「iRMC S3 ユーザ管理」をクリックします。
- 4 設定を変更したいユーザー アカウントの「名前」をクリックします。

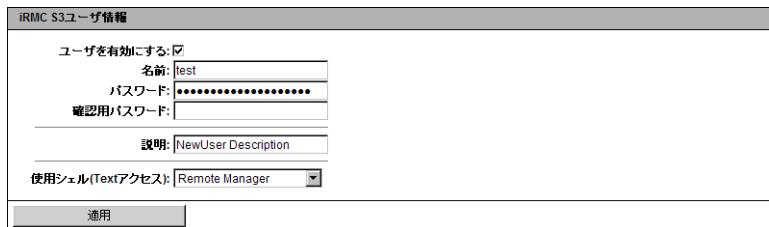


The screenshot shows the 'iRMC S3 ユーザ情報' (User Information) screen. The left sidebar has a tree view with 'システム情報' (System Information) expanded, showing 'iRMC S3' and 'iRMC S3 ユーザ管理' (User Management). The main area shows a table of users:

有効 ID	名前	説明	LAHアクセス権限	シリアルアクセス権限
2	admin	User 02 Description	OEM	OEM
3	test	NewUser Description	Administrator	User

At the bottom, there is a 'ユーザの新規作成' (Create New User) button.

- 5 「名前」に新しい名前、「パスワード」と「確認用パスワード」に、変更するパスワードを入力します。



The screenshot shows the 'iRMC S3 ユーザ情報' (User Information) dialog box. It has the following fields:

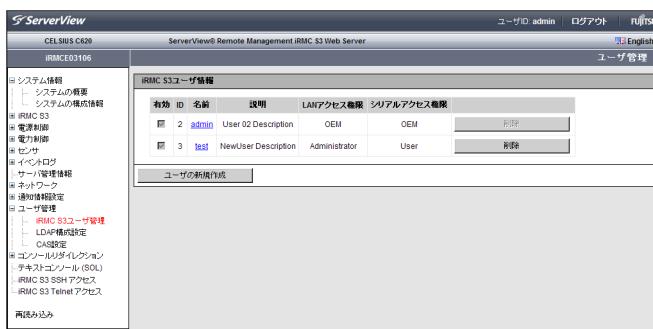
- ユーザを有効にする
- 名前:
- パスワード:
- 確認用パスワード:
- 説明:
- 使用シェル(Textアクセス):

- 6 「適用」をクリックして、設定を変更します。

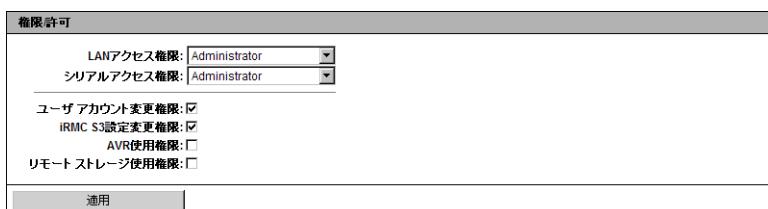
6.2.3 ユーザーアカウントの権限設定

ユーザー アカウントの権限の設定を変更します。

- 1 iRMC にログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「iRMC S3 ユーザ管理」をクリックします。
- 4 権限設定を変更したいユーザー アカウントの「名前」をクリックします。



- 5 「権限/許可」でユーザー アカウントの権限を変更します。
各項目については、「6.2.1 新しいユーザー アカウントの作成」の手順5 (→P.81) をご覧ください。



重要

- ▶ ユーザー アカウント情報の編集は、ユーザー アカウントの変更権限を持つアカウントで実行してください。

- 6 「適用」をクリックして、権限設定を変更します。

6.2.4 ユーザー帳の無効化

一時的にユーザー帳を無効にすることができます。

☞ 重要

- ▶ すべてのユーザー帳を無効化しないでください。
すべてのユーザー帳を無効化すると、WEB-UIにログインできなくなります。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。
下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「iRMC S3ユーザ管理」をクリックします。
- 4 パスワードを変更したいユーザー帳の名前をクリックします。
- 5 「ユーザを有効にする」のチェックを外します。
- 6 「適用」をクリックすることで、パスワードが変更されます。

🔍 POINT

- ▶ ユーザー帳を有効にする場合は、「ユーザを有効にする」にチェックを付けてください。

6.2.5 ユーザーアカウントの削除

使用しないユーザーアカウントを削除することができます。

重要

- 必ず、LANアクセス権限とユーザー設定権限/iRMC設定権限を持つユーザーアカウントを1つ作成してください。また、そのユーザーアカウントは無効にしないでください。
- ユーザーアカウントを削除すると、元に戻すことはできません。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「iRMC S3ユーザ管理」をクリックします。

有効	ID	名前	説明	LANアクセス権限	シリアルアクセス権限	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	admin	User 02 Description	OEM	OEM	削除
<input checked="" type="checkbox"/>	3	test	NewUser Description	Administrator	User	削除

- 4 削除したいユーザーアカウントの「削除」をクリックします。
-
- | 有効 | ID | 名前 | 説明 | LANアクセス権限 | シリアルアクセス権限 | |
|-------------------------------------|----|-------|---------------------|---------------|------------|--------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 2 | admin | User 02 Description | OEM | OEM | 削除 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3 | test | NewUser Description | Administrator | User | 削除 |

- 5 オレンジ色に表示されたら、「削除確認」をクリックします。
-
- | 有効 | ID | 名前 | 説明 | LANアクセス権限 | シリアルアクセス権限 | |
|-------------------------------------|----|-------|---------------------|---------------|------------|----------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 2 | admin | User 02 Description | OEM | OEM | 削除 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 3 | test | NewUser Description | Administrator | User | 削除確認 |

ユーザーアカウントが削除されます。

6.3 電源管理

本ワークステーションの電源制御管理を、システム管理者が遠隔で行える機能です。

重要

- 本機能はシステム管理者のみ使用できます。

6.3.1 電源制御の設定

遠隔で行う電源制御方法を設定します。

- iRMCにログインします（→P.78）。
- 画面左部のツリーメニューから、「電源制御」の「+」をクリックします。
下位メニューが表示されます。
- 表示された「Power On/Off」をクリックします。



重要

- 「電源状態概要」、「起動オプション」の設定は、変更しないでください。本ワークステーションでは、サポートしていません。

4 「電源制御」で遠隔で行う電源制御にチェックを付けます。



電源投入 ^注	本ワークステーションの電源を入れます。
電源Off-ON ^注	本ワークステーション上のOSから強制終了をし、しばらくして自動的に電源を入れます。
電源切断 ^注	本ワークステーション上のOSから、強制終了します。
電源切断（シャットダウン）	本ワークステーションではサポートしていません。
ハードリセット	本ワークステーションではサポートしていません。
リセット（シャットダウン）	本ワークステーションではサポートしていません。
NMI発行	本ワークステーションではサポートしていません。
電源ボタンを押す ^注	ワークステーションの電源ボタンと同じ動作をします。 電源ボタンを押す動作は、電源オフ状態、省電力状態、継続状態など、OSの電源ボタンの設定により異なります。

注：「適用」をクリックすると「実行しますか？」と表示されます。実行する場合は「OK」を、実行しない場合は「キャンセル」をクリックしてください。

5 「適用」をクリックします。

6.3.2 電源投入時刻の設定

ワークステーションの電源を、iRMCのタイマーで制御します。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「電源制御」の「+」をクリックします。
下位メニューが表示されます。

3 表示された「電源制御オプション」をクリックします。



重要

- ▶ 「電源復旧時動作設定」、「ゼロワットテクノロジ」の設定は変更しないでください。本ワークステーションでは、サポートしていません。
- ▶ BIOSセットアップメニューのWakeup on RTC（「5.3.5 Wakeup on RTCを有効にする」（→P.67））と、本設定は同期していません。それぞれ独立したタイマーで制御しています。

4 「自動電源投入/切断時刻設定」で、自動で電源を入れる時刻を設定します。

自動電源投入/切断時刻設定	
電源投入時刻	電源切断時刻
<input type="text"/>	<input type="text"/>
hh:mm	hh:mm
Trap	Trap
0	0
【分】前にトラップ送信	
<input type="button" value="適用"/>	
電源投入時刻	本ワークステーションの電源を、自動的に入れる時刻（0:00～23:59）を設定します。
Trap	電源を入れる時刻になる前に、「Trap」で設定した分數前にSNMPトラップ（0~255）を送信します。
電源切断時刻	使用できません。 OSのスケジュール機能で電源を切ってください。（OSの強制終了で動作するためデータが壊れるおそれがあります。）

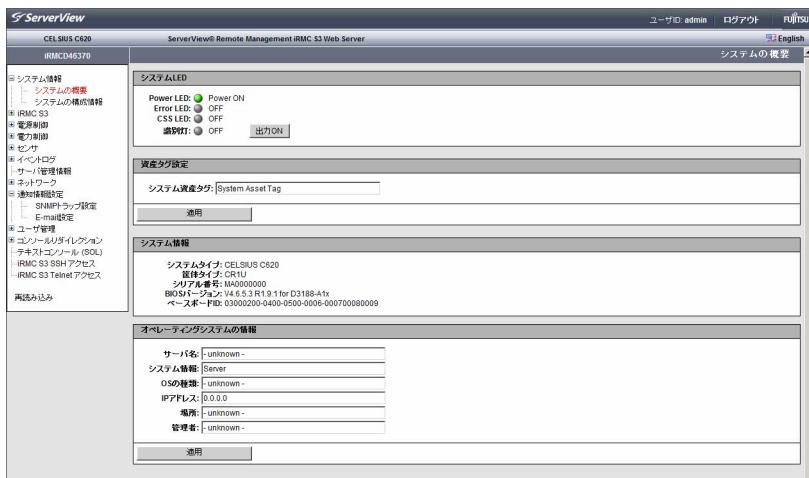
5 「適用」をクリックします。

6.4 ID ランプの遠隔操作

ワークステーション本体前面および本体背面にあるIDランプは、WEBインターフェースから遠隔で点灯／消灯させることができます。これにより、障害が発生した場合に、本装置をラックから素早く識別することができます。

6.4.1 ID ランプの点灯／消灯

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「システムの情報」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「システムの概要」をクリックします。



- 4 「システムLED」の「識別灯」の横にある「出力ON」または「出力OFF」をクリックします。



「出力ON」をクリック	ワークステーション本体前面および背面のIDランプが、青色点灯します。
「出力OFF」をクリック	ワークステーション本体前面および背面のIDランプが、消灯します。

6.5 ネットワーク設定

システム管理者がIPアドレス、WEBインターフェース、DNSの設定を行います。
ご利用になるシステムやネットワーク環境に合わせて設定してください。

POINT

- ▶ 設定を誤ると、外部から本ワークステーションのiRMCへ接続できなくなります。
その場合、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを指定し直す必要があります。
ご注意ください。

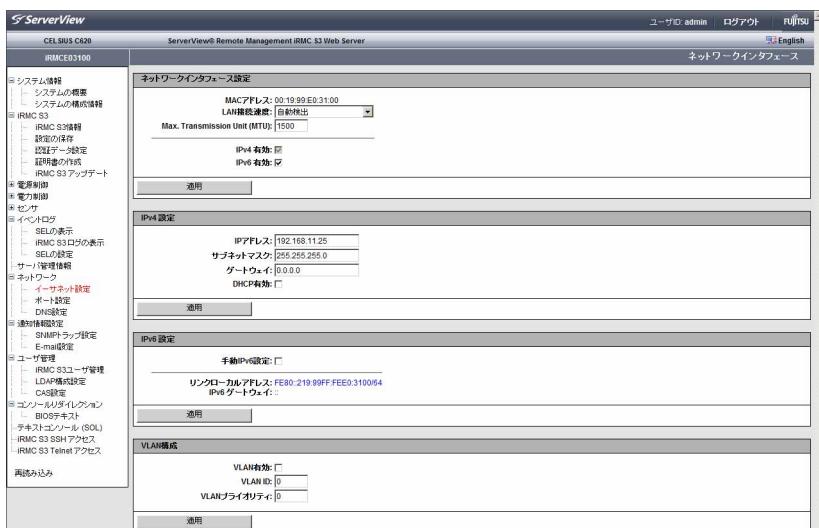
6.5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)

iRMCの「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」の設定を行います。
本設定は、「6.1.1 IPアドレスの設定」(→P.77) のBIOSセットアップメニューで行う設定と同じです。

POINT

- ▶ 本設定とBIOSセットアップメニューでの設定は連動しています。後から設定を変更した結果が優先されます。

- 1 iRMCにログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ネットワーク」の「+」をクリックします。
下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「イーサネット設定」をクリックします。



4 「IPv4設定」に次の設定をそれぞれ入力します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス



5 「適用」をクリックします。

「適用」クリック後は、入力したIPアドレスに変更されます。新しいIPアドレスでiRMCにログインしてください。(→P.78)

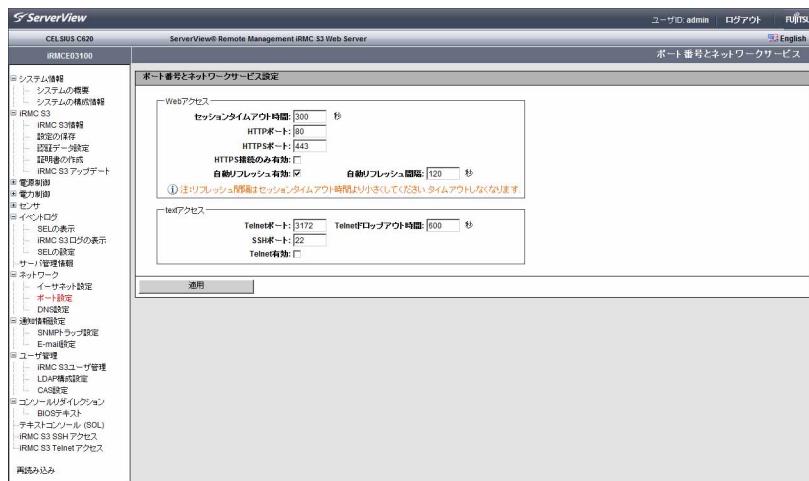
 **重要**

- ▶ 新しいIPアドレスでiRMCにログインできない場合、iRMCのIPアドレスの入力を誤ったか、接続できないIPアドレスを設定した可能性があります。
この場合、「6.1.1 IPアドレスの設定」(→P.77)に従い、BIOSセットアップメニューからIPアドレスを設定し直してください。
- ▶ IPv4設定以外の項目はサポートしていません。設定を変更しないでください。

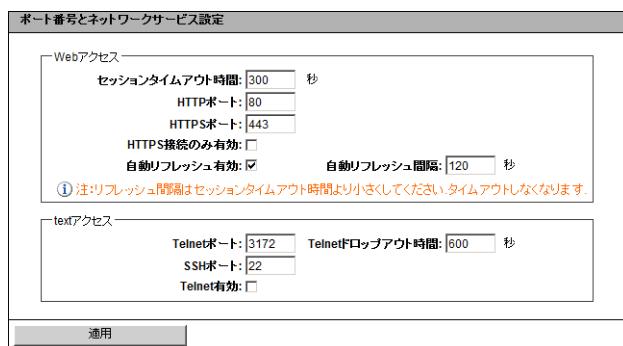
6.5.2 セッションタイムアウトと自動リフレッシュ時間の設定

イーサネット設定後に、画面を自動更新する時間と、自動で接続が切断されるまでの時間を指定します。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ネットワーク」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「ポート設定」をクリックします。



- 4 「セッションタイムアウト時間」の数字（秒）に、タイムアウトするまでの時間を入力します。



- 5 「適用」をクリックし、設定を反映します。

重要

- ▶ 「Web アクセス」設定項目は、「セッションタイムアウト時間」以外の変更はしないでください。

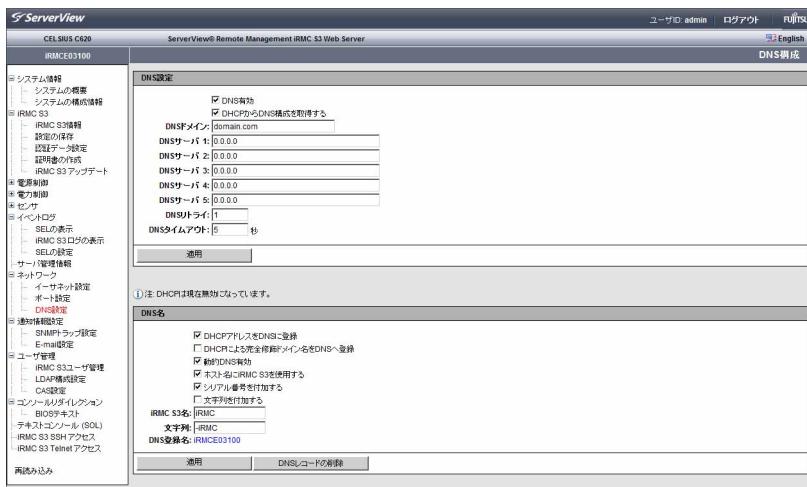
6.5.3 DNS設定

iRMCのドメインネームサービス（DNS）を有効にできます。これにより、IP アドレスではなく具体的な DNS 名を使用できるようになります。

重要

- ▶ DNSサーバーが存在しない場合や、DNSを使用しない場合は本設定の変更はしないでください。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ネットワーク」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「DNS設定」をクリックします。



- 4 DNS設定を有効にする場合「DNS有効」にチェックを付けます。
ご購入時はチェックが付いています。



5 DNS構成を自動取得する場合 「DHCPからDNS構成を取得する」にチェックを付けます。

ご購入時はチェックが付いています。

DNSサーバーのIPアドレスは、DHCPにより自動取得されます。

 **POINT**

- ▶ DNS構成を自動取得しない場合および、固定IPアドレスを使用している場合
 1. 「DNS ドメイン」の欄にDNSサーバーのデフォルトドメインを入力してください。
 2. DNSサーバーのIPアドレスを「DNSサーバ」欄に入力します。
DNSサーバーのIPアドレスは最大で5つまで設定できます。

6 DNSに対してリトライを行う回数を指定します。

7 DNS応答のタイムアウト時間を「DNSタイムアウト」欄に入力します。

8 「適用」をクリックし、設定を反映します。

6.5.4 ネットワーク設定の初期値

ネットワーク設定メニューの初期値です。

「6.5.1 イーサネット設定 (IPアドレスの設定)」、「6.5.2 セッションタイムアウトと自動リフレッシュ時間の設定」、「6.5.3 DNS設定」で説明がない項目については、初期値から設定を変更しないでください。

■ イーサネット設定

□ ネットワークインターフェース設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
MACアドレス	—	iRMC内蔵LANコントローラーのMACアドレスが表示されます。
LAN接続速度	自動検出	LANの速度を指定します。 「自動検出」は、自動的に正しい伝送速度および全二重または半二重方式の接続方法を決定します。
Max. Transmission Unit (MTU)	1500	通信時に1回の転送 (1フレーム) で送信できるデータの最大値を指定します。
IPv4有効	チェックあり	IPv4アドレスリングを有効または無効にします。 ※ IPv4を使用してアクセスしているとき、本設定は変更できません。
IPv6有効	チェックあり	IPv6アドレスリングを有効または無効にします。 ※ IPv6を使用してアクセスしているとき、本設定は変更できません。

□ IPv4 設定

※「6.1.1 IP アドレスの設定」(→P.77) で値を変更した場合、初期値とは異なる値が指定されています。

項目	初期値	説明
IP アドレス	0.0.0.0	iRMC 内蔵 LAN コントローラーの IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	0.0.0.0	iRMC 内蔵 LAN コントローラーのサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ	0.0.0.0	iRMC 内蔵 LAN コントローラーが参加する LAN 内のデフォルトゲートウェイの IPv4 アドレスを指定します。
DHCP 有効	チェックあり	DHCP の有効／無効を指定します。 ※ ネットワーク上に DHCP サーバーが存在しない場合は、有効にしないでください。

□ IPv6 設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
手動 IPv6 設定	チェックなし	IPv6 設定を手動で行うかどうかを選択します。 ご購入時は無効に設定されています。

□ VLAN 設定

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目	初期値	説明
VLAN 有効	チェックなし	iRMC の VLAN サポート機能を有効にします。
VLAN ID	0	iRMC が属する仮想ネットワーク (VLAN) の VLAN ID を指定します。 許容される値の範囲は:1 ≤ VLAN ID ≤ 4094 までです。
VLAN プライオリティ	0	「VLAN ID」で指定した VLAN における iRMC の VLAN プライオリティを指定します。許容される値の範囲は0 ≤ VLAN プライオリティ ≤ 7 です。

■ ポート設定

□ ポート番号とネットワークサービス設定

※「セッションタイムアウト時間」以外の項目は、設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
Webアクセス設定	セッションタイムアウト時間	300 iRMCにログイン後、通信していない時間が指定時間を過ぎると自動でセッションが終了します。
	HTTP ポート	80 iRMCがHTTP通信時に使用するポート番号です。
	HTTPS ポート	443 iRMCがHTTPS通信時に使用するポート番号です。
	HTTPS接続のみ有効	チェックなし チェックを付けると、iRMCへのログインはHTTPS通信でのみ可能になります。
	自動リフレッシュ有効	チェックあり チェックを付けると、iRMCの画面は一定時間で自動的に再読み込みされます。
	自動リフレッシュ間隔	120 「自動リフレッシュ有効」が有効の場合、再読み込みの間隔を設定します。

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
Textアクセス	Telnet ポート	3172 Telnet通信時の使用ポートを指定します。
	Telnet ドロップアウト時間	600 通信がされていない場合の、自動で遮断する時間を指定します。
	SSH ポート	22 SSH通信時の使用ポートを指定します。
	Telnet 有効	チェックなし Telnet通信の有効／無効を指定します。 ※ Telnet通信はサポートしていません。

■ DNS設定

□ DNS設定

項目名	初期値	説明
DNS有効	チェックあり	DNSを使用するかどうか指定します。
DHCPからDNS構成を取得する	チェックあり	チェックを付けると、DNS サーバーの IP アドレスを DHCP サーバーから自動的に取得します。
DNS ドメイン	domain.com	「DHCP から DNS 構成を取得する」が無効な場合、DNS サーバーのデフォルトドメインを設定します。
DNS サーバ 1～5:	0.0.0.0	「DHCP から DNS 構成を取得する」が無効な場合、DNS サーバーの IP アドレスを入力します。 最大で5つまで入力可能です。
DNS リトライ	1	DNSのリトライ回数を指定します。
DNS タイムアウト	5	DNS応答のタイムアウト時間（秒）を指定します。

□ DNS名

※ 本項目は設定を変更しないでください。

項目名	初期値	説明
DHCP アドレスを DNS に登録	チェックあり	※ IPv6 アドレスシングルングを使用する場合は無効です。 DHCP サーバーを使用して iRMC と DNS を登録するための、DHCP サーバーへの DHCP 名の転送を有効または無効にします。
DHCP による完全修飾ドメイン名を DNS へ登録	チェックなし	※ IPv6 アドレスシングルングを使用する場合は無効です。 DHCP サーバーを使用して iRMC と DNS を登録するための、DHCP サーバーへの FQDN (Fully Qualified Domain Name) の転送を有効または無効にします。
動的 DNS 有効	チェックあり	動的 DNS を使用した DNS レコードのアップデートを有効または無効にします。
ホスト名に iRMC S3 を使用する	チェックあり	「iRMC S3名」に入力された文字列が、iRMC の登録名として使用されます。
シリアル番号を付加する	チェックあり	iRMC の MAC アドレスの最後の 3 バイトが iRMC の登録名に付加します。
文字列を付加する	チェックなし	「文字列」に入力された文字列を、iRMC の登録名に付加します。
iRMC S3名	iRMC	「ホスト名に iRMC S3 を使用する」が有効の場合に、iRMC の登録名に使用する文字列を指定します。
文字列	-iRMC	「文字列を付加する」が有効の場合に、iRMC の登録名に使用する文字列を指定します。

6.6 センサー確認

本ワークステーションに搭載されているセンサーで、ファンの動作状況、ワークステーション内部の温度を確認することができます。

POINT

- 他のセンサーは、本ワークステーションではサポートしていません。

6.6.1 ファンの状態を確認する

- iRMCにログインします (→P.78)。
- 画面左部のツリーメニューから、「センサ」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 表示された「ファン」をクリックします。
「システムファン」の状態を確認できます。

番号	センサ名	回転数[RPM]	回転レベル	異常動作	シャットダウン待ち時間(秒)	状態	CSS対象
1	FAN1_OFK	6600	101	恒速稼動	90	FAN on, running	No
2	FAN2_OFK	6600	100	恒速稼動	90	FAN on, running	No
3	FAN3_OFK	6600	100	恒速稼動	90	FAN on, running	No
4	FAN4_SYS	6600	100	恒速稼動	90	FAN on, running	No
5	FAN5_SYS	6600	100	恒速稼動	90	FAN on, running	No
6	FAN_FSU	3960	98	恒速稼動	90	FAN on, running	No

● 状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてています。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	ファンは正常に動作しています。
	該当する部品は、本ワークステーションには搭載していません。

● 各項目の説明

センサ名称	監視しているファンの名称です。
回転数 [RPM]	ファンの回転数を RPM (Revolution Per Minute) で表示します。
回転率 [%]	ファンの回転率を表示します。

異常時動作	本ワークステーションではサポートしていません。
シャットダウン 待ち時間 [秒]	本ワークステーションではサポートしていません。
状態	ファンの状態が表示されます。
CSS 対象	本ワークステーションではサポートしていません。

- 4** ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

6.6.2 温度センサーの状態を確認する

- 1 iRMCにログインします(→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「センサ」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「温度」をクリックします。「温度センサ情報」で、各部の温度を確認できます。

選択	番号	センサ名	温度 [°C]	警告レベル	危険レベル	異常時動作	状態
<input type="checkbox"/>	1	Ambient	28	37	42	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	2	DIMM	28	50	55	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	3	PCIe Riser 1	31	55	60	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	4	PCIe Riser 2	32	55	60	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	5	Inlet	27	40	45	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	6	Systemboard	34	55	60	絶続稼動	OK
<input type="checkbox"/>	7	CPU	35	100	105	絶続稼動	OK

●状態アイコンの説明

	測定値が危険のしきい値を超えてます。システムの稼働状態は危険な状態にある可能性があり、最悪の場合データ喪失の危険性があります。
	測定値が警告のしきい値を超えてます。設置環境が高温になつてないかどうか確認してください。システムはまだ危険な状態にありませんが、定期的に監視するようにしてください。
	温度はしきい値を超えてなく、正常に動作しています。
	該当するセンサーは、本ワークステーションには搭載していません。

●各項目の説明

センサ名	監視対象の部品の名称です。
温度 [°C]	各部の温度を表示します。
警告レベル	警告レベルと判定する温度です。この温度を超えただけでは装置に異常が起こることはありますが、設置環境や装置の稼働状態などの継続監視が必要です。
危険レベル	危険レベルと判定する温度です。この温度を超えた場合、装置の動作に異常をきたす可能性があります。
異常時動作	本ワークステーションではサポートしていません。
状態	温度センサーの状態が表示されます。

- 4 ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

6.6.3 ステータスモニター

ステータスモニターを使用すると、温度／FANの状態について簡単に確認できます。
警告発生時は、速やかにシステム管理者に連絡してください。

■ ドライバー／ソフトウェアのインストール

次のドライバー／ソフトウェアを「ドライバーズディスク検索ツール」からインストールします（→P.51）。

● Windows 8の場合

- ・ステータスモニター
「ステータスモニター」フォルダーにある「readme.txt」をご覧ください。

● Windows 7の場合

- ・Intel(R) IPMI ドライバー（64ビット版）
「Intel(R) IPMI ドライバー（64ビット版）」フォルダーにある「install.txt」をご覧ください。
- ・ステータスモニター
「ステータスモニター」フォルダーにある「readme.txt」をご覧ください。

☞ 重要

- ▶ ドライバー／ソフトウェアのアンインストール
「ステータスモニター」をご使用にならない場合は、「■ ドライバー／ソフトウェアのインストール」（→P.102）でインストールしたドライバーおよびソフトウェアをアンインストールしてください。
アンインストール方法については、各ドライバー／ソフトウェアの「readme.txt」および「install.txt」をご覧ください。

■ 状態の確認

「各デバイス現在の状態」で、各センサーの状態を確認します。

1 次の操作を行います。

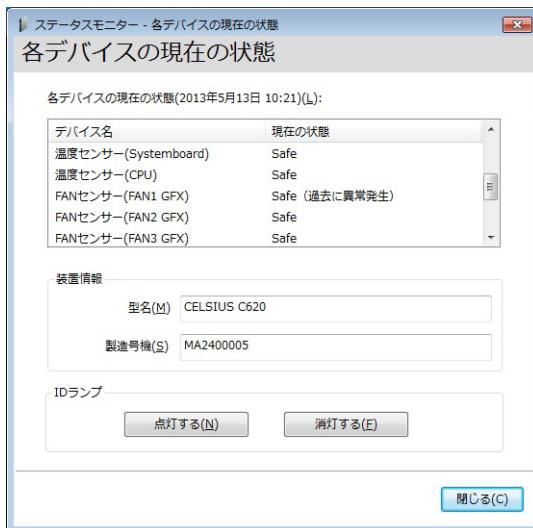
● Windows 8の場合

1. スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
2. 「FUJITSU - ステータスマニター」の「ステータスマニター」をクリックします。

● Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FUJITSU - ステータスマニター」→「ステータスマニター」順にクリックします。

「各デバイス現在の状態」が表示されます。



デバイス名	温度センサー／FANセンサーを表示します。
現在の状態	各センサーの状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none">safe :センサーに異常は記録されていません。safe (過去に異常あり) :警告状態が発生し、ワークステーション利用者が警告発生を無視した場合などに表示されます。fail :警告状態です。
装置情報	型名と製造号機を表示します。
IDランプ	ワークステーションに搭載されているIDランプの点灯／消灯を行います。 点灯状況は「FUJITSU - ステータスマニター」の「IDランプの状態を確認する」を起動して確認できます (→P.105)。

□ 異常検知時の画面

異常を検知すると、次の画面が表示されます。



異常を検知したデバイスの情報を通知するとともに、Windowsのイベントログに検知したセンサーと時間などを記録します。

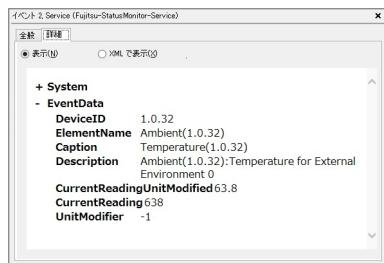
また、iRMCのイベントログ（SEL）にも情報が記録されます。正確な情報はiRMCのイベントログ（SEL）（→P.107）をご覧ください。

☞ 重要

- ▶ Windowsのイベントビューアーは次の操作で表示することができます。
 - Windows 8の場合
 - 1. 【Win】 + 【X】キーを押し、表示されたメニューから「イベントビューアー」をクリックします。
 - Windows 7の場合
 - 1. 「コンピューター」を右クリックします。
 - 2. 「イベントビューアー」 → 「アプリケーションとサービスログ」 → 「Fujitsu」 → 「StatusMonitor」 → 「Service」の順番にクリックします。
- ▶ Windowsのイベントログに記録される時間とiRMCのイベントログ（SEL）に記録される情報は、同じではありません。
ステータスマニタでは短時間に発生する同一エラーをフィルター処理し、各センサーの監視間隔がiRMCと異なります。
- ▶ Windowsのイベントログの「詳細」には、次のような内容が表示されます。
 - 例：FANセンサー



・例：温度センサー



iRMC から読み取ったデータを表示します。

DeviceID	センサーごとにDeviceとして表示
ElementName	iRMC のセンサー名
Caption	センサーの種類 ・ Fan (xx.x.xx) : FAN センサー ・ Temperature (xx.x.xx) : 温度センサー
CurrentReadind UnitModified	読み取り値から換算した値 ・ FAN の単位は (rpm) ・ 温度の単位は (°C)

■ ID ランプの状態を確認する

ワークステーション本体のIDランプの点灯状態を確認することができます。

1 次の操作を行います。

● Windows 8の場合

- スタート画面の何もないところを右クリックし、画面右下の「すべてのアプリ」をクリックします。
- 「FUJITSU - ステータスモニター」の「IDランプの状態を確認する」をクリックします。

● Windows 7の場合

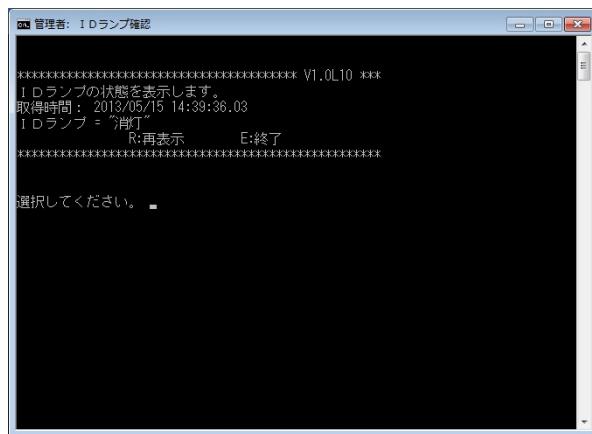
- 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FUJITSU - ステータスモニター」→「IDランプの状態を確認する」の順にクリックします。

IDランプ確認画面が表示されます。

- 消灯時



・点灯時



取得時間	ID ランプの状態を取得した日時を表示します。
ID ランプ	消灯…ワークステーションのID ランプは消灯しています。 点灯（青色）…ワークステーションのID ランプは点灯しています。
R:再表示	「R」または「r」を入力後、「Enter」をクリックしてID ランプの状態を再取得します。
E:終了	「E」または「e」を入力後、「Enter」をクリックしてアプリケーションを終了します。

6.7 システムイベントログ (SEL)

iRMCが検出したワークステーションの状態や警告を、記録／確認することができます。

6.7.1 システムイベントログ (SEL) を確認する

- 1 iRMCにログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「イベントログ」の「+」をクリックします。下位メニューが表示されます。
- 3 表示された「SELの表示」をクリックします。
「システムイベントログ内容」で、本ワークステーションのシステムイベントログを確認できます。



発生日時	重 要 度	エラーコード	発生元	内 容	種 別	CSS対象
04-Sep-2012 20:21:22	重 要 度 (Major)	340002	Housing open	Housing opened	Security	No

システムイベントログについては、「■ システムイベントログ (SEL) に記録されるエラーメッセージ」 (→P.150) をご覧ください。

- 4 ウィンドウ右上の「ログアウト」をクリックし、WEBインターフェースを閉じます。

6.7.2 システムイベントログ (SEL) を削除する

※ 重要

- ▶ システムイベントログの削除は、LANアクセス権限が「User」では使用できません。
「LANアクセス権限」については、「6.2.1 新しいユーザー帳票の作成」(→P.81) をご覧ください。

- 1 iRMCにログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「イベントログ」の「+」をクリックします。
- 3 表示された「SELの表示」をクリックします。



- 4 「システムイベントログ (SEL) 情報」で「ログのクリア」をクリックします。



- 5 確認画面が出るのでクリアする場合はもう一度「ログのクリア」をクリックします。

一定時間内に「ログのクリア」をクリックしないと、元の画面に戻ります。

6.8 E-mail 通知

本ワークステーションには、異常が発生した場合にE-mailで通知をする機能が設られています。E-mail通知を行うには、E-mail送信サーバーの設定と、E-mail送信先アドレスの設定を行う必要があります。

☞ 重要

- ▶ E-mail通知機能を使用するには、本ワークステーションと通信可能なネットワーク内にSMTPサーバーが存在している必要があります。
- ▶ 本機能は、ネットワーク設定を行わないと正常に動作しません。お客様のネットワーク環境にあわせた設定を行ってください。
E-mailが正しく送信されない場合は、「6.8.3 テストメールとE-mail通知の確認」(→P.114)をご覧になり、問題箇所の特定を行ってください。
なお、ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路上の不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- ▶ 本ワークステーションのE-mail送信機能は、POP before SMTP（メール送信前に、指定したPOP3サーバーに事前にアクセスする認証方式）に対応しておりません。SMTPサーバーへの認証方式は「認証を行わない」方式か、RFC2554（SMTP認証）に定義された認証方式を使用してください。

6.8.1 E-mail 通知の設定

E-mail送信機能を有効にするには、SMTPサーバー設定と、宛先アドレス（システム管理者やネットワーク管理者のアドレス）を指定する必要があります。また、設定に必要となるSMTPサーバーに関する情報を、ネットワーク管理者に確認する必要があります。

■ SMTPサーバーの情報を確認する

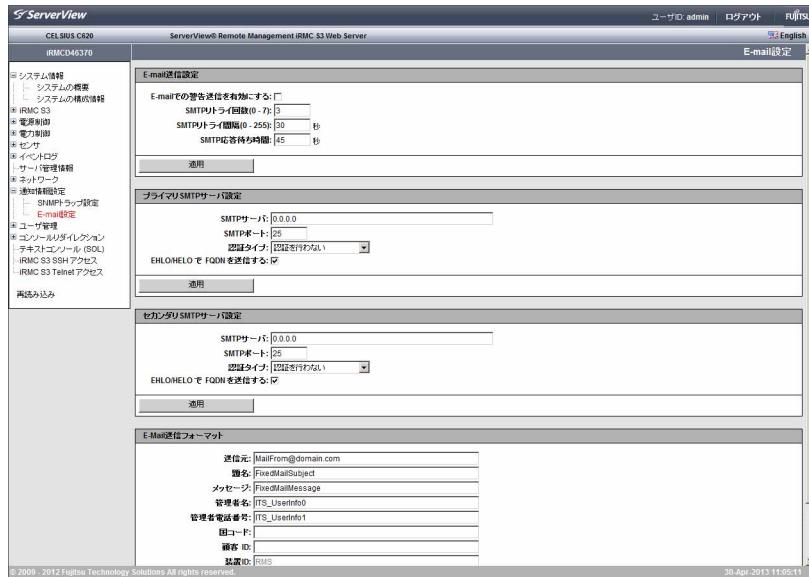
ネットワーク管理者に、SMTPサーバーに関する次の情報を事前に問い合わせ、確認してください。この情報は、E-mail通知の設定を行ううえで必要になります。

- SMTPサーバーのIPアドレス または DNS名
- SMTPサーバーとの通信ポート番号
- 認証方式（認証なし、またはRFC2554（SMTP認証）に定義された認証処理）

■ SMTP サーバーの接続設定

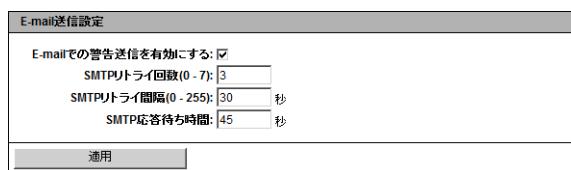
E-mail を送信する SMTP サーバーとの通信設定を行います。

- 1 iRMC にログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「通知情報設定」の「+」をクリックします。
- 3 表示された「E-mail 設定」をクリックします。



- 4 「E-mail 送信設定」の「E-mail での警告送信を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。

E-mail 送信機能が有効になります。



5 「プライマリ SMTP サーバー設定」を設定します。

SMTP サーバーに接続するために、「■ SMTP サーバーの情報を確認する」(→P.109) でシステム管理者に確認した次の情報を入力します。



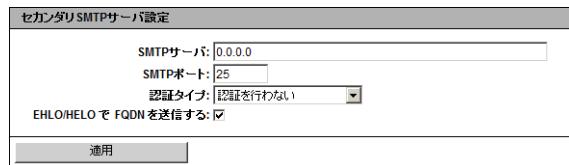
SMTP サーバ	SMTP サーバーの IP アドレス、または DNS 名を入力します。
SMTP ポート	SMTP サーバーと通信するときのポート番号を入力します。
認証タイプ	SMTP サーバーが採用している認証タイプに合った設定を指定します。

※ 「EHLO/HELO で FQDN を送信する」はチェックを付けたままにしてください。

6 「適用」をクリックします。

POINT

- セカンダリ SMTP サーバ設定
SMTP サーバーが複数ある場合は、「セカンダリ SMTP サーバ設定」を設定します。
SMTP サーバーを 1 つしか使わない場合は設定不要です。



7 「E-Mail 送信フォーマット」を設定します。



「送信元」に、E-mail のヘッダーに記録される送信元メールアドレスを入力します。
E-mail を受信したときに、発信者（送信元）として表示されます。

※ 重要

- 「送信元」メールアドレスは、初期値のままでも E-mail 送信機能を使用できます。
- 「送信元サーバURL」のアドレスは、本ワークステーションでは自動取得されません。
表示が不要な場合は「送信元サーバURL」の欄を削除してください。
- 「送信元」、「送信元サーバURL」以外の項目は変更しないでください。

8 「適用」をクリックし、設定を反映します。

■ E-mail 送信アドレスの設定

E-mail を送信する宛先アドレスの設定を行います。

- 1 iRMC にログインします (→P.78)。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。
- 3 表示された「iRMC S3 ユーザ管理」をクリックします。



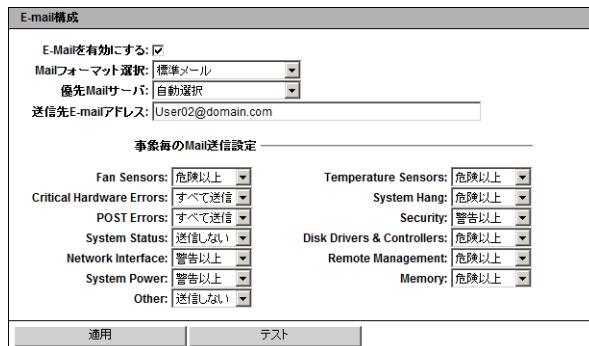
- 4 「iRMC S3 ユーザ情報」の E-mail を送信する宛先アカウントの名前をクリックします。

例 : 「admin」アカウントの E-mail 送信設定



- 5 「E-mail 構成」を設定します。

1. 「E-mail を有効にする」にチェックを付け、有効にします。
2. 「送信先 E-mail アドレス」に、送信する宛先 (E-mail アドレス) を入力します。



重要

- ▶ 1つのアカウントに対し、指定できるメールアドレスは1つだけです。
複数のアドレスに送信したい場合は、アカウントを新たに作成してください。
- ▶ 「事象毎の Mail 送信設定」は変更しないでください。

6 「適用」をクリックし、設定を反映します。

設定が完了したら、テストメールの送信（→P.113）を行い、メールが正しく送信されることを確認してください。

6.8.2 テストメールの送信

E-mail送信の設定が完了したら必ずテストメールを送信し、送信が正しくできることを確認してください。

- 1 iRMCにログインします（→P.78）。
- 2 画面左部のツリーメニューから、「ユーザ管理」の「+」をクリックします。
- 3 表示された「iRMC S3ユーザ管理」をクリックします。

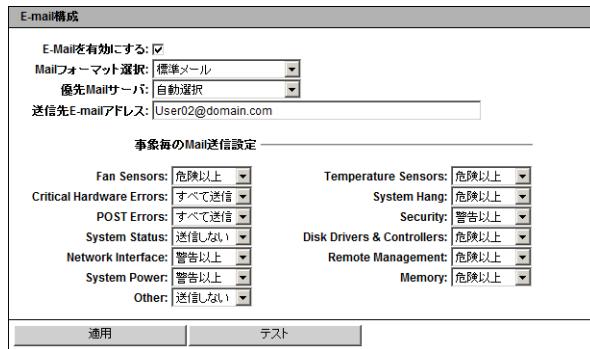


- 4 「iRMC S3ユーザ情報」のE-mailを送信する宛先アカウントの名前をクリックします。

例：「admin」アカウントのE-mail送信テスト



5 「E-mail構成」の「テスト」をクリックします。



次のような題名のテストメールが送信されます。

テストメールが指定した送信先E-mailアドレスに届いているか、確認してください。

題名 : Test mail from iRMCXXXXX (*****@XXX.XXX.XXX.XXX)

※ 「*****」はテストメールを送信したユーザー情報名が表示されます。

※ 「XXX」に表示される文字は、装置により異なります。

6.8.3 テストメールとE-mail通知の確認

テストメールやE-mail通知がうまく届かない場合は、次の順番で問題箇所の特定を行ってください。

- iRMCのシステムイベントログからの原因特定 (→P.114)
- Windowsでの通信の確認 (→P.116)
- Windowsでの通信確認／メール送信 (→P.119)

■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定

iRMCのシステムイベントログには、E-mailが正常に送信できなかった場合のエラーログが記録されます。エラーログの内容から、どのような障害が起こっているのかを特定します。

1 iRMCのシステムイベントログを表示します。

システムイベントログの表示は、「6.7 システムイベントログ (SEL)」 (→P.107) をご覧ください。

2 「システムイベントログ内容」の「情報 (info) を表示」にチェックを付け、「適用」をクリックします。



3 表示されたリストに、次のログが記録されていないか確認します。

重要度	エラーコード	発生元	内容	種別
情報(Info)	240041	iRMC S3	PAGING: iRMC S3 'admin' Email - Bad 'RCPT'	None
情報(Info)	240036	iRMC S3	PAGING: iRMC S3 'admin' Email - No connect	None

- PAGING: iRMC S3 '****' E-mail - Bad 'RCPT'
- PAGING: iRMC S3 '****' E-mail - No connect

※ '****' はE-mail設定を行ったユーザーアカウント名が表示されます。

4 エラーメッセージの内容を元に、原因を特定します。

●「PAGING: iRMC S3 '****' E-mail - No connect」と表示される

原因	対策
SMTPサーバーに到達できません。	SMTPサーバーのIPアドレスまたはDNS名が合っているか確認してください。 (→P.109)
	通信ポート番号が合っているか確認してください。 (→P.109)
	SMTPサーバーと通信できるネットワーク内にiRMCのIPアドレスが用意されているか確認してください。 (※)
	Firewallなどで、通信がブロックされていないか確認してください。 (※)

※ ケーブル不良、ネットワークハブの障害など、通信経路による不具合については、ネットワーク担当者にお問い合わせください。

●「PAGING: iRMC S3 '****' E-mail - Bad 'RCPT」と表示される

原因	対策
SMTPサーバーにはつながりましたが、E-mailの宛先が存在しません (E-mailアドレスが間違っています)。	宛先E-mailアドレスを、正しいアドレスに直してください。

● エラーメッセージが表示されない

原因	対策
E-mail送信機能が無効になっています。	「E-mailでの警告送信を有効にする」にチェックを付けます。 (→P.110)
	「E-mailを有効にする」にチェックを付けます。 (→P.112)
	SMTPサーバーのIPアドレスが初期値(0.0.0.0)のままになっている場合、E-mail送信機能は動作しません。正しいIPアドレス、またはDNS名を入力します。 (→P.111)
E-mailは正しく送信されていますが、管理者が受信できていません。	迷惑メールフィルターにより、ブロックされている可能性があります。お使いの環境のメールフィルター設定を確認してください。
	お使いの環境のメール受信設定が正しく設定されているか、確認してください。

■ Windowsでの通信確認

「■ iRMCのシステムイベントログからの原因特定」(→P.114) で原因がわからなかった場合、本ワークステーションのLANコントローラー(i82574L Ethernet Controller)とiRMCのIPアドレスを入れ替え、Windows上でpingコマンドやtracertコマンド、E-mailアプリケーションを使用して異常がないか確認を行います。

□ 通信確認環境への設定変更

 **重要**

- ▶ 本手順では、LANポート1を一時的に無効化し、LANポート2のIPアドレスの設定を一時的に変更します。必ず業務で本ワークステーションを使用していないときに確認を行ってください。

1 BIOSセットアップを起動します。
「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」(→P.57)

2 「IPMI管理」メニューを選択します。

3 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 次の3つの設定の値を記録します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレス設定」が「DHCP」になっている場合、上記3項目の記録は不要です。

5 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を次のように変更します。

- ・IPアドレス : 169.254.1.1
- ・サブネットマスク : 255.255.255.0
- ・デフォルトゲートウェイ : 0.0.0.0

※ 上記のIPアドレスをすでに使用している場合は、ネットワーク環境に影響を与えない孤立IPアドレスをネットワーク管理者に確認して指定してください。

※ 「IPアドレス設定」が「DHCP」になっている場合は、事前に「固定アドレスを使う」に変更してください。

6 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。

「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

7 ワークステーションを再起動します。

8 コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。

「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」

9 ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。

10 「Intel 82574L Gigabit Network Connection」のネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。

11 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」をダブルクリックします。

12 次の3つの設定の値を記録します。

- ・IPアドレス
- ・サブネットマスク
- ・デフォルトゲートウェイ

※ 「IPアドレスを自動的に取得する」設定になっている場合、記録は不要です。

13 「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の値を、手順4で記録した内容に変更します。

※ 手順4が「DHCP」、手順12が「IPアドレスを自動的に取得する」になっている場合は、設定不要です。

14 「OK」をクリックして設定を保存し、ウィンドウを閉じます。

15 「Intel 82579LM Gigabit Network Connection」のネットワーク接続アイコンを右クリックし、「無効にする」をクリックします。

16 開いているウィンドウを閉じます。

17 「コマンドプロンプト」を起動します。

- 18** 「■ Windowsでの通信確認／メール送信」(→P.119) の内容に従い、Windows上で検証を行います。

※ 重要

▶ 確認が終了したら、必ず次の手順に従って設定を元に戻してください。

□ 通信環境を元に戻す

- 1** コントロールパネルの「ネットワークと共有センター」を開きます。
「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」
- 2** ウィンドウ左の「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 3** 「Intel 82579LM Gigabit Network Connection」のネットワーク接続アイコンを右クリックし、「有効にする」をクリックします。
- 4** 「Intel 82574L Gigabit Network Connection」のネットワーク接続アイコンを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 5** 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」をダブルクリックします。
- 6** 次の3項目の内容を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順12で記録した内容に戻します
「IPアドレスを自動的に取得する」の設定だった場合は、設定を戻します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ
- 7** ワークステーションを再起動し、BIOSセットアップを起動します。
「5.2.1 BIOSセットアップを起動する」(→P.57)
- 8** 「IPMI管理」メニューを選択します。
- 9** 「iRMC LAN設定」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 10** 次の3つの設定の値を、「□ 通信確認環境への設定変更」の手順4で記録した内容に戻します。
 - ・IPアドレス
 - ・サブネットマスク
 - ・デフォルトゲートウェイ

※「IPアドレス設定」が「固定アドレスを使う」になっている場合は、「DHCP」に設定を戻します。
- 11** 変更を保存して、BIOSセットアップを終了します。
「5.2.5 BIOSセットアップを終了する」(→P.59)

■ Windowsでの通信確認／メール送信

ここではWindows上でメールの送信を試みます。

E-mailアプリケーションを使用し、iRMCで設定したものと同じSMTPサーバー経由でメールを送信することができるか確認します。

※ 設定方法については、お使いのE-mailアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

□ Windows上でメールの送信ができた場合

原因	対策
SMTPサーバーが認証方式にPOP before SMTPを使用している	本ワークステーションのE-mail送信機能は、POP before SMTPに対応しておりません。認証なしか、RFC2554(SMTP認証)に定義された認証方式を使用するSMTPサーバーを指定してください。
iRMCのE-mail送信機能が正しく動作していません	装置不良の可能性があります。

□ Windows上でメールの送信ができなかった場合

原因	対策
本ワークステーションのiRMC機能以外の要因です。	ネットワーク環境またはWindowsの設定に問題があります。

※ 通信経路による不具合については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ E-mailのフォーマット

装置に異常が発生した場合や、テストメールを送信すると、次のフォーマットに沿ったメールが送信されます。

- 例：題名

ID : MA2700034 EVT: 00109 TXT: 'Ambient': Temperature high critical : 42 C

項目	説明
ID	装置号機が記載されます。
EVT	システムイベントログの番号が記載されます。
TXT	障害内容が記載されます。

● 例：本文

```
Message: 00109 21-Mar-2013 09:30:04 'Ambient': Temperature high critical : 42 C
Severity: Critical
CSS Event: no

System Information
Server Name : - unknown -
Server Type : CELSIUS C620
SerialNumber: MA2700034
BIOS Version: V4.6.5.3 R1.6.0 for D3188-A1x
Server O/S : - unknown -
Server URL : http://www.server.com
SysContact : - unknown -
SysLocation : - unknown -
Server IP :

iRMC S3 Information
FW Version : 6.53A (base is V4.10A6P4)
FW BuildData: Jun 28 2012 - 07:16:51
SDRR Version: 3.00 ID 0329
URL(0) : http://192.168.1.10]
```

項目	説明
Message	イベントが記載されます。
Severity	重要度が記載されます。Critical障害の場合は対策が必要です。
CSS Event	本ワークステーションではサポートしていません。 本項目は無視してください。
Server Name	「空欄」または「-unknown-」と表示されます。 本ワークステーションではこの情報は自動取得されません。 本項目は無視してください。
Server O/S	
SysContact	
SysLocation	
ServerIP	
Server Type	CELSIUS C620と記載されます。
SerialNumber	装置号機が記載されます。
BIOS Version	本ワークステーションのBIOSのバージョンが記載されます。
Server URL	「E-Mail送信フォーマット」で指定したアドレスが記載されます。
FW Version	iRMC フームウェアの版数が記載されます。
FW BuildData	
SDRR Version	
URL(0)	障害装置のWEBインターフェースのアドレスが記載されます。 WEBインターフェースにアクセス可能なネットワークにいる場合は、URLをクリックすることでログインできます。

6.8.4 主な送信 E-mail 内容一覧

イベント	イベントの内容
'FAN* GFX': Fan failed	※「*」には任意の数字が入ります ワークステーションの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'FAN* SYS': Fan failed	ワークステーションの冷却ファンが故障しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	ワークステーションが稼働中に、電源供給が絶たれました。ACケーブルが外れかかっていないか、停電や瞬断が発生していないか確認してください。
'XXX': Temperature high critical: *** C	※「XXX」には任意の文字列が入ります。 ※「***」には任意の数字が入ります。 ワークステーションの温度センサーが、危険しきい値を超えた。ワークステーションの設置環境が高温になっていないか確認してください。
'DIMM-XX': Memory Uncorrectable error (ECC)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'DIMM-XX': Memory module failed (disabled)	※「XX」には任意の文字列が入ります。 メモリーに訂正不可能なエラーが発生しました。このエラーが継続して発生する場合メモリーが故障しています。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Fatal NMI	メモリーエラーなど、異常が発生したため装置が自動停止しました。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - No video device detected	映像を出力するデバイスが見つからないか、モニターがつながっていません。Windows 8をご使用の場合、モニターがグラフィック端子に接続されているか確認してください。
POST - Invalid date/time	日付と時刻が異常です。正しい日付と時刻を BIOS セットアップメニューで指定してください。
POST - No memory installed	メモリーが搭載されていないか、故障しています。このエラーが継続して発生する場合は「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
POST - Front panel NMI / diagnostic interrupt	ワークステーション本体前面の「NMIボタン」が押されたときに送信されます。NMIボタンは押さないでください。
Housing opened	ワークステーション本体天面が開いた場合に送信されます。ワークステーション本体天面は開けないでください。

6.8.5 E-mail 設定の初期値

E-mail 設定メニューの初期値と各項目の説明です。

■ E-mail 送信設定

項目	初期値	説明
E-mail での警告送信を有効にする	チェックなし	「E-mail 設定」の有効／無効を設定します。チェックを外すと、E-mail 送信設定は無効になります。
SMTP リトライ回数	3	E-mail 送信エラーとなった場合の、リトライ（再送）回数を設定します。
SMTP リトライ間隔	30	リトライを行う間隔（秒）を設定します。
SMTP 応答待ち時間	45	SMTP サーバーからのレスポンス（応答）待ち時間（秒）を設定します。

※ E-mail 送信で指定するメールサーバーの、メールソフトの種類または LAN 回線の速度などにより、メールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「E-mail 送信設定」の「SMTP 応答待ち時間」の値を大きくしてください。

■ プライマリ SMTP サーバ設定

項目	初期値	説明
SMTP サーバ	0.0.0.0	SMTP サーバーの IP アドレスを指定します。DNS が有効の場合はサーバー名でも指定できます。
SMTP ポート	25	SMTP で使用するポート番号を指定します。初期値は 25 です。
認証タイプ	認証を行わない	SMTP サーバーのユーザー認証タイプを設定します。 <ul style="list-style-type: none">認証を行わない SMTP サーバーはユーザ認証を行いません。認証を行う（RFC2554） SMTP サーバーは RFC2554（SMTP 認証）に定義された認証処理を行います。 ※ POP before SMTP には対応しておりません。
EHLO/HELO で FQDN を送信する	チェックあり	このチェックは外さないでください。

■ E-Mail 送信フォーマット

項目	初期値	説明
送信元	MailForm@domain.com	E-mail の送信元アドレスを記入します。 ※ 本機には E-mail を受信する機能はありません。そのため送信元アドレスには、障害 E-mail が届いたときに返信をしたい返信先メールアドレスを入力してください。
題名	FixedMailSubject	ITS フォーマット (未サポート) 時のみ反映されるため、使用できません。
メッセージ	FixedMailMessage	ITS _UserInfo0
管理者名	ITS _UserInfo0	変更しないでください。
管理者電話番号	ITS _UserInfo1	
国コード	(空欄)	
顧客ID	(空欄)	
装置ID	RMS	REMCS フォーマット (未サポート) 時のみ反映されるため、使用できません。 変更しないでください。
送信元サーバURL	http://www.server.com	ここに記載した URL は、E-mail 送信時に本文に記載されます。 ※ E-mail は US-ASCII 形式で送信されます。 全角文字や半角カナ文字は使用しないでください。

■ E-mail 構成

項目	初期値	説明
E-mail を有効にする	チェックなし	チェックを付けることで、指定した宛先アドレスへの E-mail 送信機能が有効になります。
Mail フォーマット選択	標準メール	E-mail のフォーマットを指定します。 本項目は「標準メール」から変更しないでください。
優先メールサーバ	自動選択	プライマリ SMTP サーバー、セカンダリ SMTP サーバーのどちらを優先的に使用するか指定します。通常は「自動選択」のまま変更する必要ありません。
送信先 E-mail アドレス	User02@domain.com	E-mail を送信する宛先 E-mail アドレスを入力します。
事象毎の Mail 送信設定	「事象毎の Mail 送信設定」の初期値」の表をご覧ください	各項目でイベントが発生した場合に、メールを送信するしきい値です。 Fan Sensors と Temperature Sensors が「危険以上」になっていることを確認し、違う場合は修正してください。 ※ 本項目はむやみに変更しないでください。

□「事象毎の Mail 送信設定」の初期値

項目	初期値	説明
Fan Sensors	危険以上	冷却FANに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、FANの故障が疑われる場合に送信します。
Critical Hardware Errors	すべて送信	ワークステーションが異常停止するような事象が発生した場合に送信されます。NMIボタンを押したときなどがこれにあたります。
POST Errors	すべて送信	ワークステーション起動時に検知した事象に関する送信しきい値です。 メモリー未搭載、日付時刻異常がこれにあたります。
System Status	送信しない	iRMC と BIOS の時刻同期を実施したときなどに記録されます。
Network Interface	警告以上	本ワークステーションではサポートしていません。
System Power	警告以上	電源に関する送信しきい値です。 「警告以上」では、電源供給が突然絶たれた（AC抜け、停電など）ときに送信します。
Other	送信しない	本ワークステーションではサポートしていません。
Temperature Sensors	危険以上	温度センサーに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、ワークステーションの継続動作に支障が生じる温度の場合に送信します。
System Hang	危険以上	ワークステーションの応答がなくなった場合に送信されます。 「危険以上」では、ワークステーションの確認が必要と思われる場合に送信します。
Security	警告以上	セキュリティ上問題を検知した場合の送信しきい値です。 「警告以上」では iRMC への不正アクセス時や、ワークステーション本体の蓋（天板）を開けたときに送信されます。
Disk Drivers & Controllers	危険以上	本ワークステーションではサポートしていません。
Remote Management	危険以上	iRMC 機能に関する送信しきい値です。 「危険以上」では iRMC の故障が疑われる場合に送信します。
Memory	危険以上	メモリーに関する送信しきい値です。 「危険以上」では、メモリー故障が疑われる場合に送信します。

7

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

7.1 日常のお手入れ 126

7.1 日常のお手入れ

ワークステーション本体や周辺機器を長時間ご使用になると、汚れが付いたり、ほこりがたまつたりします。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

7.1.1 ワークステーション本体の表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあつたときの対処方法について説明しています。

8.1 トラブル発生時の基本操作	128
8.2 よくあるトラブルと解決方法	134
8.3 それでも解決できないときは	151

8.1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

8.1.1 状況を確認する

トラブルが発生したときは、直前に行った操作や現在のワークステーションの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたら控えておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモ帳などに控えておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ リモートアクセスに関するトラブルの場合

本ワークステーションをリモートアクセスのホストとして使用している場合は、次の点について確認してください。また、「■ リモートアクセス」(→P.146) もあわせてご覧ください。

- トラブルが発生しているコンピューターの特定が必要です。利用している本ワークステーション（リモートアクセスのホスト）を特定するために、システム管理者に連絡しホスト／クライアントをそれぞれ特定してください。
- クライアント端末（パソコン／シンクライアント）を変更して、トラブルが解決するか確認してください。
トラブルが解決した場合は、クライアント端末（パソコン／シンクライアント）側でトラブルが発生していることがあります。
- 次のネットワークが正常に動作しているか、ネットワーク管理者に確認してください。
 - ・クライアント端末（パソコン／シンクライアント）側のネットワーク
 - ・リモートアクセスのホスト／管理サーバー側のネットワーク
 - ・企業内ネットワーク／校内ネットワークなどの基幹ネットワーク
- 本ワークステーション、クライアント端末（パソコン／シンクライアント）、サーバー上でそれぞれ動作しているリモートアクセスソフトウェアのいずれかでトラブルが発生していることがあります。システム管理者にご確認ください。
また、お使いのリモートアクセスソフトウェアのマニュアルなどに記載されているサポート窓口にご確認ください。
- リモートアクセスのソフトウェアによっては、管理サーバーが必要となる場合があります。システム管理者にサーバーの状態をご確認ください。

■ ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？また緩んだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、ワークステーションが正常に動作しないことがあります。

■ 保守ランプを確認する

ワークステーション本体の保守ランプの点灯状態（→P.147）を確認し、iRMCのシステムイベントログ（SEL）を確認してください。エラーメッセージについては、「■ システムイベントログ（SEL）に記録されるエラーメッセージ」（→P.150）をご覧ください。

■ イベントログを確認する

BIOSのイベントログやiRMCのシステムイベントログ（SEL）、Windowsのイベントログに該当するトラブルがあるか確認してください。BIOSイベントログについては、「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」（→P.149）、iRMCのシステムイベントログについては、「■ システムイベントログ（SEL）に記録されるエラーメッセージ」（→P.150）を、Windowsのイベントログについては「6.6.3 ステータスモニター」（→P.102）をご覧ください。

この他、「8.2.2 起動・終了時のトラブル」（→P.136）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

8.1.2 以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

8.1.3 セーフモードで起動する (Windows 7の場合)

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。

起動方法は次のとおりです。

☞ 重要

- ▶ セーフモードで起動する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
電源の切り方は、「2.3.2 電源を切る」(→P.24) をご覧ください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。
「詳細ブートオプション」が表示されます。
【F8】キーは一度押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 4 管理者アカウントでログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
Windowsがセーフモードで起動し、「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ セーフモードでも起動できない場合
手順3で「前回正常起動時の構成 (詳細)」を選択して、Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻してください。

8.1.4 トラブルシューティングで調べる

「8.2 よくあるトラブルと解決方法」(→P.134) は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

8.1.5 Windowsのヘルプで調べる

Windowsの機能については、Windowsのヘルプをご覧ください。

8.1.6 インターネットで調べる

よくあるQA一覧ページ (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/qalist/index.html>) では、本ワークステーションで発生したトラブルの解決方法を提供しています。

また、富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本ワークステーションに関連したサポート情報や更新されたドライバーを提供しております。

注意事項や補足情報も公開していますので、解決方法がないかご覧ください。

8.1.7 診断プログラムを使用する

診断プログラムを使用して、ハードウェアに障害が発生していないか診断してください。
まずBIOSの起動メニューにある診断プログラムで簡単に診断し、異常が発見されなければ続けて「富士通ハードウェア診断ツール」でデバイスを選んで詳しく診断します。

診断後にエラーコードが表示された場合は控えておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。

診断時間は5～10分程度ですが、診断する内容やワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

◀ 重要

- ▶ 診断プログラムを使用する場合は、完全に電源を切った状態から操作してください。
電源の切り方は、「2.3.2 電源を切る」(→P.24) をご覧ください。
- ▶ BIOSの設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOSをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「5.3.8 ご購入時の設定に戻す」(→P.69) をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USBメモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

- 1 【F12】キーを押したまま、本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。

POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力し、すぐに【F12】キーを押してください。
- ▶ 起動メニューが表示されずWindowsが起動してしまった場合は、本ワークステーションの電源を切ってもう一度操作してください。

- 3 カーソルキーで「診断プログラム」または「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

- 4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にワークステーションが再起動する場合があります。

- 5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

続けて「富士通ハードウェア診断ツール」が起動します。

【Enter】キーを押してください。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

手順6以降の「富士通ハードウェア診断ツール」での診断は不要です。画面に表示された内容を控え、お問い合わせのときにお伝えください。その後、【Y】キーを押してワークステーションの電源をお切りください。

- 6 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

- 7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

POINT

- ▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「リカバリデータディスク」や「トラブル解決ナビディスク」など、『リカバリガイド』に従って作成したディスクをセットしてください。音楽CDなどでは診断できない場合があります。

診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

- 8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には控えておき、お問い合わせのときにお伝えください。

- 9** 「診断結果」 ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」 ウィンドウに戻ります。
- 10** 「終了」をクリックします。
「終了」 ウィンドウが表示されます。
- 11** 「はい」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」 ウィンドウが表示されます。
- 12** 「トラブル解決ナビ」 ウィンドウで「終了」をクリックし、終了を確認する画面で「OK」をクリックします。
ワークステーションが再起動します。

8.1.8 サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「8.3 それでも解決できないときは」（→P.151）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

8.2 よくあるトラブルと解決方法

8.2.1 トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」 (→P.136)
- 「ビープ音が鳴った」 (→P.136)
- 「メッセージが表示された」 (→P.136)
- 「画面に何も表示されない」 (→P.137)
- 「Windowsが起動しない、または以前より起動に時間がかかる」 (→P.137)
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」 (→P.138)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにサインイン（ログオン）できない」 (→P.138)
- 「ソフトウェアが動かなくなってしまった」 (→P.138)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.139)
- 「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」 (→P.139)
- 「「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある」 (→P.139)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった」 (→P.140)

□ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」 (→P.140)

□ LAN

- 「ネットワークに接続できない」 (→P.141)
- 「通信速度が遅い」 (→P.141)

□ ハードディスク

- 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→P.142)

□ デバイス

- 「機器が使用できない」 (→P.142)

□ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→P.142)
- 「ディスクが取り出せない」 (→P.143)
- 「ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない」 (→P.143)

□ キーボード

- 「キーボードが動作しない」 (→P.144)

□ ポインティングデバイス

- 「マウスポインターが動かない、正しく動作しない」 (→P.144)

□ USB

- 「USBデバイスが使えない」 (→P.145)
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→P.145)

□ プリンター

- 「プリンターを使用できない」 (→P.146)

□ リモートアクセス

- 「リモートアクセス時に、画面の表示がおかしい、遅い」 (→P.146)
- 「リモートアクセス時に、画面に何も表示されない」 (→P.146)

□ iRMC

- 「ログインができない」 (→P.146)

□ その他

- 「保守ランプが点灯または点滅する」 (→P.147)
- 「「ジー」「キーン」という音がする」 (→P.147)

8.2.2 起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。
ビープ音によるエラー通知は、「ピーッ」「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。
ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
 - ・メモリのテストエラー
メモリが搭載されていないか、メモリの初期化（認識）に失敗しています。
メモリテストエラーの場合、画面には何も表示されません。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
 - ・ビデオコントローラ（グラフィックスカード）のエラー
ビデオコントローラ（グラフィックスカード）が搭載されていないか、またはビデオコントローラの初期化（認識）に失敗しています。
 - ・ディスプレイケーブルのエラー（Windows 8の場合）
ディスプレイケーブルが接続されていない場合にビープ音が鳴ります。
ディスプレイケーブルが正しく接続されているか確認してください。
上記を確認後もビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.148）の「■ 起動時に表示されるエラーメッセージ」で該当するメッセージを確認し、記載されている処置に従ってください。
一部のメッセージはBIOSイベントログに記録され、BIOSセットアップから確認できます。「8.2.5 エラーメッセージ一覧」（→P.148）の「■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ」をご覧ください。
- 周辺機器の取り付けを確認してください。
周辺機器などを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。このとき、周辺機器やユーティリティソフトのマニュアルがある場合は、それらもあわせてご覧ください。

- 「PLEASE POWER DOWN AND CONNECT THE PCIe POWER CABLE(S) FOR THIS GRAPHICS CARD」と表示されて、Windowsが起動しない場合があります。
グラフィックスカードの補助電源ケーブルが正しく取り付けられているか確認してください。
上記の処置をしてもまだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



画面に何も表示されない

- 電源ランプが点灯していますか？
電源ボタンを押して動作状態にしてください。それでも、画面が表示されない場合は「電源が入らない」(→P.136)をご覧ください。
- ディスプレイに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・デジタルディスプレイや複数台のディスプレイを接続している場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？必ずワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- ・グラフィックスカード搭載機種の場合、ワークステーション本体のディスプレイコネクタにケーブルを接続していませんか？
ワークステーション本体のコネクタは使用できません。グラフィックスカードのコネクタに接続してください。



Windowsが起動しない、または以前より起動に時間がかかる

- Windows起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。
Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールしましたか？
 - ・セキュリティチップ認証デバイスを使用してWindowsにサインイン（ログオン）している場合、その認証デバイスのドライバーをアンインストールするとWindowsが正常に起動できなくなります。
Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にご連絡ください。
- OSを変更しましたか？
OSを変更した場合、BIOSの設定も変更する必要があります。BIOSの設定については、『リカバリガイド』－「ハードディスク全体をリカバリする、またはOSを切り替える」をご覧ください。

- HDDの起動順位が変わっていませんか？

HDDが正しく装着されていない状態でワークステーションを起動すると、デバイスの起動順位が変更されてしまいます。デバイスの起動順位を確認し、変更されている場合は設定し直してください。設定の方法については、「起動デバイスを変更する」(→P.64)をご覧ください。



Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順でWindowsを終了させてください。

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押し、画面右下の「シャットダウン」アイコンをクリックします。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。



重要

- ▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。

8.2.3 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関連するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにサインイン（ログオン）できない

- セキュリティチップを使用してWindowsにサインイン（ログオン）している場合、BIOSセットアップの設定を「使用しない」にすると、Windowsにサインイン（ログオン）できなくなります。BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。

「詳細」メニューの「TPM（セキュリティチップ）設定」の「セキュリティチップ」を「使用する」に設定します。



ソフトウェアが動かなくなってしまった

- 「Windowsタスクマネージャー」から、動かなくなったソフトウェアを強制終了してください。



POINT

- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合、ソフトウェアでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ ソフトウェアを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

- 次の項目を確認してください。

- ・ウイルス対策ソフトウェアでハードディスクをスキャンする

定期的にハードディスクをスキャンすることをお勧めします。

- ・C ドライブの空き容量が充分か確認する

Windows のシステムファイルが格納されている C ドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。

C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。空き容量を増やすには次の方法があります。

- ・ごみ箱を空にする

- ・不要なファイルやソフトウェアを削除する

- ・ディスクのクリーンアップを行う

- ・ハードディスクのエラーチェックを行う

それでもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。



Windows やソフトウェアの動作が遅くなった

- 通風孔などにほこりが付着し、ワークステーションの内部が高温になっている可能性があります。

再起動してください。問題が解決する場合があります。



「デバイスマネージャー」に「不明なデバイス」がある

- 「FUJ02E3 デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。

「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 Device Driver」が表示されているかを確認してください。

表示されていない場合は、「FUJ02E3 デバイスドライバー」をインストールしてください。

インストール方法は、「ドライバーズディスク」に格納されている「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

1. 「ドライバーズディスク」をセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

2. 「機種名」にお使いの機種を、「OS」にお使いの OS を設定します。

3. 「種別」に「必須」を設定します。

4. 「一覧」の「ソフトウェア」で「FUJ02E3 Device Driver」を選択します。

5. 「内容」の「driver」フォルダー→「ja」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。

8.2.4 ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



BIOSで設定したパスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れるとき、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。
ハードディスクパスワードを忘れるとき、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。
いずれの場合も修理が必要となります。
ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。
詳しくは、「■ パスワードを忘れてしまった」(→P.64)をご覧ください。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、ページングファイルを保存するドライブを変更してください。
- 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。
ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

仮想メモリのサイズは次の手順で変更します。

- コントロールパネルの「システム」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」
- ウィンドウ左の「システムの詳細設定」をクリックします。
- 「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
- 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
- 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。

6. ページングファイルを保存するドライブを変更する場合は、「ドライブ」で保存するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
7. 「カスタムサイズ」をクリックします。
8. 「初期サイズ」および「最大サイズ」を入力し、「設定」をクリックします。
「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」に表示されている「推奨」の値より大きい値を設定してください。また、「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定してください。
9. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
10. 再起動のメッセージが表示された場合は、メッセージに従って本ワークステーションを再起動します。

■ LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルを使っていますか？

ネットワークの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。



通信速度が遅い

- ネットワーク機器の電源を入れてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度が極端に低下したりする場合があります。
例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることを確認後、ワークステーション本体を再起動してください。
- 節電機能が働いていませんか？
Windowsの省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度が下がります。これにより問題がある場合は、「2.5.1 有線LAN」（→P.35）をご覧になり、この機能を無効に設定してください。

■ ハードディスク



ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・Windowsを終了した直後
 - ・省電力状態（スリープ、休止状態）にした直後
 - ・ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なった場合）
 - ・中断した状態から再度ワークステーションを操作した場合
 - ・ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？
次の機器を搭載した機種では、情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter Premium」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
システム管理者に確認してください。
 - ・USB（内蔵USBデバイスを含む）
 - ・CD/DVD
 - ・フロッピーディスク
 - ・シリアル
 - ・パラレル

■ CD/DVD



ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「2章 取り扱い」（→P.13）の「ディスクをセットする」をご覧ください。
- ディスクが汚れていますか、水滴が付いたりしていませんか？
汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷付いていますか、極端に反っていますか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格外にあったディスクをお使いください。詳しくは、「2.4.2 使用できるディスク」（→P.29）をご覧ください。



ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？

本ワークステーションの光学ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「2.4.4 ディスクを取り出す」(→P.32) をご覧ください。



ディスクが再生されない、ディスクの再生が円滑に行われない

- DVD-Videoの再生は、サポートしていません。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「8.2.2 起動・終了時のトラブル」(→P.136) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。
- 省電力状態になっていませんか？

本ワークステーションには省電力機能が設定されており、一定時間マウスやキーボードからの入力がないと省電力状態に移行します。

詳しくは「2.3 省電力」(→P.21) をご覧ください。



表示が乱れる

- 解像度、発色数、リフレッシュレートが正しく設定されていますか？
「2.1.2 解像度を変更する」(→P.14) をご覧になり、正しく設定してください。
外部ディスプレイの場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ソフトウェアを最小化します。
 2. 最小化したソフトウェアを元のサイズに戻します。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。

● ドライバーが正しくインストールされていますか？

「4.2 インストール」(→P.51)をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。

Windows 7の場合、Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください。(→P.130)。

● リモートアクセスを使用していませんか？

本ワークステーションとクライアント端末のネットワーク状態によって、画面が乱れることがあります。システム管理者、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

● お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、またはリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。

● Dual Link対応ディスプレイをお使いの場合は、必ずディスプレイ付属のケーブル (Dual Link対応)をお使いください。

■ キーボード



キーボードが動作しない

● キーボードは正しく接続されていますか？

・電源を切らずにキーボードのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。

● KVMスイッチのケーブル接続を確認してください。

■ ポインティングデバイス



マウスポインターが動かない、正しく動作しない

● マウスは正しく接続されていますか？(USBマウスの場合)

・電源を切らずにマウスのUSBコネクタを一度抜き、接続し直してください。

● オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？(光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合)

オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

● 次のようなもの上で操作していませんか？(光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合)

・鏡やガラスなど反射しやすいもの

・光沢のあるもの

・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの(木目調など)

・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。ワークステーションを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.142）
- USB3.0コネクタにUSB3.0に対応していないUSBデバイスを接続していませんか？
USB3.0コネクタにはUSB3.0に対応したUSBデバイスの接続をお勧めします。USB3.0に対応していないUSBデバイスを接続して不具合が発生した場合は、USB2.0コネクタに接続してください。
- リモートアクセスを使用していませんか？
ご使用になるリモートアクセスソフトウェアによって、USBの動作が異なります。お使いのソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。



USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. コントロールパネルの「デバイスマネージャー」を開きます。
「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」
 2. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」または「USBルートハブ」をダブルクリックします。
「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウまたは「USBルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.142）

■ プリンター



プリンターを使用できない

- 「Portshutter Premium」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.142）
プリンターの使用方法については、プリンターのマニュアルをご覧ください。

■ リモートアクセス



リモートアクセス時に、画面の表示がおかしい、遅い

- 本ワークステーションだけのトラブルではなく、ネットワーク環境やパソコン／シンクライアント側の端末、サーバーなどの影響がある場合があります。
- リモートアクセスのソフトウェアに問題がある場合があります。
お使いのソフトウェアのマニュアルなどに記載されているサポート窓口にご確認ください。



リモートアクセス時に、画面に何も表示されない

- 本ワークステーションだけのトラブルではなく、ネットワーク環境やパソコン／シンクライアント側の端末、サーバーなどの影響がある場合があります。
- リモートアクセスのソフトウェアに問題がある場合があります。
お使いのソフトウェアのマニュアルなどに記載されているサポート窓口にご確認ください。

■ iRMC



ログインができない

- ログインするユーザー アカウントおよび、パスワードを忘れるに iRMC にアクセスできなくなります。
詳しくは、「6.2 iRMC ユーザー アカウント」（→P.80）をご覧ください。

■ その他



保守ランプが点灯または点滅する

- ワークステーション本体の吸気温度が高い場合に、点灯または点滅します。
ワークステーション本体の周囲温度を下げてください。
システムイベントログに記録されたエラーメッセージの確認は、「■ システムイベントログ (SEL) に記録されるエラーメッセージ」(→P.150) をご覧ください。



「ジー」「キーン」という音がする

- 静かな場所では、「ジー」「キーン」というワークステーション本体内部の電子回路の動作音が聞こえる場合があります。
故障ではありませんので、そのままお使いください。

8.2.5 エラーメッセージ一覧

ここでは、本ワークステーションが表示するメッセージと、その対処方法を説明しています。エラーメッセージ一覧には、お使いのワークステーションに搭載されているハードウェアによっては、表示されないメッセージも含まれています。本書に記載されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ 起動時に表示されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で異常が見つかった場合に表示されるメッセージは、次のとおりです。

△ 重要

- エラーメッセージが表示された場合は、対処した後にBIOSセットアップを起動し、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を実行してください。

メッセージ	解説
B	
Boot Failure Press any key to continue	OSが見つかりませんでした。BIOSセットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。
BOOT: Couldn't find NTLDR Please insert another disk	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
C	
Check date and time settings 日付と時刻の設定を確認してください。	日付/時刻がリセットされました。 BIOSセットアップを起動して、正しい日付/時刻を設定してください。
I	
Invalid Password パスワードが正しくありません。	誤ったパスワードが入力されました。
N	
Non - System disk or disk error Replace and press any key to ready	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
NTLDR is missing Press any key to restart	フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。
P	
Press <F2> to enter setup or any other key to continue. <F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。他のキーを押すと継続します。	POST中にエラーが発生するとOSを起動する前に本メッセージが表示されます。 【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動して設定を変更することができます。他のキーを押すとOSの起動を開始します。
PXE-T01:File not found	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E32:TFTP open timeout	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。 ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。

メッセージ	解説
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E53:No boot filename received	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E61:Media test failure, Check cable	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
PXE-E78:Could not locate boot server	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。
PXE-E89:Could not download boot image	Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ

起動時の自己診断（POST）で、一部のエラーはBIOSイベントログに記録されます。

BIOSイベントログは、BIOSセットアップの「イベントログメニュー」の「イベントログの表示」から確認できます。

BIOSセットアップメニューについては、『BIOSセットアップメニュー一覧』をご覧ください。
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
B	
BIOS Post batt dead ERROR CODE:FJ 00090071	日付/時刻がリセットされました。
日付/時刻不正 ERROR CODE:FJ 00090071	BIOSセットアップを起動して、正しい日付/時刻を設定してください。
D	
Diagnostic Program found error (Code=xxxxxxxx) ERROR CODE:Smbios 0x87	診断プログラムがエラーを検出しました。 診断コードを記録し、「富士通ハードウェア修理相談センター」までご連絡ください。
診断プログラムが異常を検出 (詳細コード = xxxxxxxx) ERROR CODE:Smbios 0x87	
L	
Local console component was not detected. ERROR CODE:EFI 01030003	ビデオコントローラ（グラフィックスカード）が搭載されていないか、ビデオコントローラ（グラフィックスカード）の初期化（認識）に失敗しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
ビデオコントローラが認識されません。 ERROR CODE:EFI 01030003	Windows 8の場合、ディスプレイケーブルが接続されていないときにもこのメッセージが記録されます。電源を切って、ディスプレイが正しく接続されているか確認してください。その後30秒以上待ってから電源を入れ直してください。

メッセージ	解説
M	
Memory size changed ERROR CODE:FJ 00130062	メモリ構成が変更されました。
U	
Uncorrectable ECC error encountered. DIMM nn ERROR CODE:FJ 00190003	
DIMM nnで訂正不可能なECCエラーが発生しました ERROR CODE:FJ 00190003	メモリスロットDIMM nnで訂正不可能なエラーが発生しました。 「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ システムイベントログ (SEL) に記録されるエラーメッセージ

本ワークステーションが検知した一部のエラーはシステムイベントログに記録されます。

システムイベントログは、iRMCにログイン（→P.78）することで確認できます。

システムイベントログに記録される主なエラーメッセージは、次のとおりです。

メッセージ	解説
F	
'FANn XXX' Fan Failed	該当するファンが故障した疑いがあります。本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
H	
Housing Opened	本体カバーが取り外されました。電源を切って、本体カバーが取り付けられていることを確認してください。 それでも本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
M	
'DIMM-XX' Memory: Uncorrectable error (ECC) 'DIMM-XX': Memory module failed (disabled) Fatal NMI	メモリスロットDIMM nnで訂正不可能なエラーが発生しました。 本メッセージが表示されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
P	
POST - No memory installed	装置にメモリが搭載されていないか、正常に認識できていません。本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
Power unit primary power lost	装置稼働中に、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたか、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
'PSU': Power supply failed	電源が切れているときに、外部からの給電が絶たれました。ACケーブルが取り外されたから、瞬断が発生した可能性があります。ACケーブルが確実に接続されているか確認してください。
T	
'XXXX': Temperature high critical: **C	該当するセンサーの温度が、危険しきい値を超ました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。 それでも本メッセージが記録されるときは、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
'XXXX': Temperature high warning: **C	該当するセンサーの温度が、警告しきい値を超ました。設置環境の温度が高くないか、吸排気ができる環境になっているか確認してください。 このログが記録されても装置はまだ危険な状態ではありませんが、継続して監視するようにしてください。

8.3 それでも解決できないときは

8.3.1 お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

● マカフィー® マルチアクセスインターネットセキュリティ期間限定版

マカフィー株式会社

URL : <http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

(1) マカフィー・テクニカルサポートセンター

電話 : 0570-060-033 (携帯電話からの場合 : 03-5428-2279)

受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休)

お問い合わせフォーム :

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_tswebform.asp

(2) マカフィー・カスタマーサービスセンター

電話 : 0570-030-088 (携帯電話からの場合 : 03-5428-1792)

受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

お問い合わせフォーム :

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportcenter_cswebform.asp

90日間の試用期間中、サポートいたします。

● i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

サポートセンター

電話 : 0570-00-1334

受付時間 : 10:00 ~ 18:00 (指定休業日を除く)

URL : <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム : <http://www.daj.jp/ask/>

90日間の試用期間中、サポートいたします。

● Adobe Reader

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● Skype

日本マイクロソフト株式会社

URL : <https://support.skype.com/ja/>

● Windows Live メール

日本マイクロソフト株式会社

マイクロソフトコミュニティからお問い合わせください。

URL : <http://answers.microsoft.com/ja-jp/>

情報を探す、質問を投稿する方法は「マイクロソフトコミュニティを初めてご利用になる方へ」ページでご確認いただけます。

URL : <http://support.microsoft.com/gp/microsoft-answers/>

9

第9章

仕様

本製品の仕様を記載しています。

9.1 本体仕様	154
9.2 CPU	158
9.3 ディスプレイ	160
9.4 光学ドライブ	161

9.1 本体仕様

9.1.1 C620

製品名称		CELSIUS C620						
CPU ^{注1}	名称	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1280v2 ^{注2}	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1275v2 ^{注2}	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1245v2 ^{注2}	インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1225v2 ^{注2}			
	動作周波数	3.60GHz (最大4.00GHz ^{注3})	3.50GHz (最大3.90GHz ^{注3})	3.40GHz (最大3.80GHz ^{注3})	3.20GHz (最大3.60GHz ^{注3})			
	コア数／ スレッド数	4／8			4／4			
	キャッシュメモリ	3次：8MB						
チップセット		インテル® C216						
システムバス		5GT/s DMI ^{注4}						
メインメモリ		標準4GB (4GB×1) ^{注5} (PC3-12800 DDR3 SDRAM DIMM CL11 ECCあり) 最大32GB						
メモリスロット		×4 (空きメモリスロット×3) ^{注6}						
表示機能 ^{注7}	グラフィックス アクセラレータ	注8	Intel® HD Graphics P4000 (CPUに内蔵) ^{注8}					
	ビデオメモリ		最大1792MB (メインメモリと共に) ^{注9}					
	Windows 8		最大1696MB (メインメモリと共に) ^{注9}					
	Windows 7		最大1920×1200 ドット／最大1677万色					
	解像度／発色数							
	DirectX		11.0					
	OpenGL		3.1					
ハードディスク ドライブ ^{注10}	標準モデル	500GB ^{注11} (Serial ATA、7200rpm)						
	24時間モデル	250GB ^{注12} (Serial ATA、7200rpm)						
光学ドライブ		スーパーマルチ ^{注13}						
通信機能		1000BASE-T／100BASE-TX／10BASE-T準拠 ^{注14} 、Wake up on LAN対応 ^{注15}						
セキュリティ機能	セキュリティ チップ	TCG Ver 1.2 準拠 ^{注16}						
	盗難防止用 ロック 取り付け穴	なし						
インターフェース	外部 ディスプレイ ^{注17}	DVI-I	29ピン×1					
	シリアル ^{注18}	非同期RS-232C 準拠 D-SUB9ピン×1 (16550A互換)						
	USB ^{注19}	USB3.0準拠×4 (背面×4) ^{注20} USB2.0準拠×2 (前面×2) ^{注21}						
	LAN	RJ-45×2						
ストレージベイ	5インチベイ	前面×1 (空きベイ×0)						
	3.5インチベイ (標準モデル)	前面×1 (空きベイ×0) ^{注22}						
	2.5インチベイ (24時間モデル)	前面×1 (空きベイ×0) ^{注23}						
電源／周波数		AC100V±10%、50/60Hz+2% -4% (入力波形は正弦波のみサポート)						

製品名称			CELSIUS C620				
消費電力	電源オフ時 ^{注24}		約4.6W				
	動作時 ^{注25} (通常時/ 最大時 ^{注26} /スリーブ時)	標準モデル	Windows 8	約46W/ 約128W/ 約4.8W	約36W/ 約128W/ 約4.8W	約35W/ 約128W/ 約4.8W	
			Windows 7	約49W/ 約132W/ 約4.8W	約37W/ 約132W/ 約4.8W	約36W/ 約132W/ 約4.8W	
	24時間モデル	Windows 8	約42W/ 約126W/ 約4.8W	約32W/ 約126W/ 約4.8W	約31W/ 約126W/ 約4.8W	約31W/ 約126W/ 約4.8W	
			Windows 7	約45W/ 約125W/ 約4.8W	約33W/ 約125W/ 約4.8W	約32W/ 約125W/ 約4.8W	
	最大消費電力		約625W				
	定格電流	動作時	最大7.0A				
	外形寸法 (19ラック占有ユニット1U、 水平設置のみ)		W 431 × D663 × H43 mm (突起物含む: W 483 × D679 × H43 mm)				
	質量	標準モデル	約10.6kg (ラックレール約4.1kg)				
		24時間モデル	約7.9kg (ラックレール約4.1kg)				
電波障害対策			VCCI クラスA				
省エネ法に基づく エネルギー消費効率			富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、 製品情報の仕様をご覧ください。				
温湿度条件			温度10～35°C/湿度20～80%RH (動作時) 温度-10～60°C/湿度20～80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)				
プレインストールOS ^{注27注28}			Windows 8 Pro (64ビット版) 正規版、 Windows 7 Professional (64ビット版) 正規版 ^{注29}				
サポートOS ^{注27注30}			Windows 8 Enterprise (64ビット版) 正規版 ^{注31} 、 Windows 8 Pro (64ビット版) 正規版 ^{注31} 、 Windows 7 Enterprise (64ビット版) 正規版 ^{注29注31} 、 Windows 7 Professional (64ビット版) 正規版 ^{注29注31}				

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「9.2 CPU」(→P.158)をご覧ください。
- 注2 : 本ワークステーションは標準でインテル® vPro™ テクノロジー/AMT8.1対応です。
・カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は、インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー (インテル® AMT) の一部の機能は使用できません。
- 注3 : インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0 (→P.158) 動作時。
- 注4 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。
- 注5 : カスタムメイドの選択によっては、8GB (4GB×2)、16GB (4GB×4) または32GB (8GB×4) の場合もあります。
- 注6 : カスタムメイド専用のスロットです。カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
- 注7 : カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は、「9.1.2 グラフィックスカード」(→P.157)をご覧ください。
- 注8 : カスタムメイドの選択によって、「Quadro K4000」、「Quadro K2000」または「Quadro K600」が搭載されています。
- 注9 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、本ワークステーションの動作状況によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量はメインメモリの使用可能な領域によって決定するため、お使いの環境によって記載された値から増減する場合があります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。
- 注10 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注11 : カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
・1TB (1TB×1) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
・1TB (500GB×2) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
・1.5TB (500GB+1TB) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
・2TB (1TB×2) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
・フラッシュメモリディスク 128GB (128GB×1) (Serial ATA)
・フラッシュメモリディスク 256GB (128GB×2) (Serial ATA)
・フラッシュメモリディスク 256GB (256GB×1) (Serial ATA)
・フラッシュメモリディスク 512GB (256GB×2) (Serial ATA)

- 注12 : カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
- ・ 500GB (250GB × 2) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
 - ・ 750GB (250GB × 3) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
 - ・ 1TB (250GB × 4) (Serial ATA、7200rpm) HDDセキュリティ対応
- 注13 : 光学ドライブの仕様は、「9.4 光学ドライブ」(→P.161)をご覧ください。
- 注14 : • 1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
- 1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注15 : • 1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、Wake up on LAN機能は使用できません。
- Wake up on LAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュブレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
 - ・ 本ワークステーションの有線LANインターフェース
 - ・ 本ワークステーションの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
- この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本ワークステーションが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ替えたり、ポートの設定を変えたりするとWake up on LAN機能が動作しない場合があります。
- ・ 省電力状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「■ WoL機能によるレジュームの設定を変更する」(→P.23)をご覧ください。
 - ・ 電源オフ状態からのWake up on LAN機能を使用するには、「5.3.4 Wakeup on LANを有効にする」(→P.66)をご覧ください。
- 注16 : ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
- 注17 : カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は使用できません。
- 注18 : すべてのシリアル対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注19 : すべてのUSB対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注20 : 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき900mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注21 : 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 注22 : カスタムメイドでハードディスクを変更した場合は、「前面×2（空きベイ×0）」になります。
- 注23 : カスタムメイドでハードディスクを変更した場合は、次のようにになります。
- ・ 2台選択時：前面×2（空きベイ×0）
 - ・ 3台選抲時：前面×3（空きベイ×0）
 - ・ 4台選抲時：前面×4（空きベイ×0）
- 注24 : 消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注25 : • ご使用になる機器構成により値は変動します。
 - ・ 標準構成でOSを起動させた状態での本体のみの測定値です。
- 注26 : • 本ワークステーションで選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
 - ・ 測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注27 : 日本語版。
- 注28 : いずれかのOSがプレインストールされています。
- 注29 : Windows 7 Service Pack 1。
- 注30 : 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
- 注31 : Windowsを新規にインストールする場合は、「付録2 Windowsの新規インストールについて」(→P.166)をご覧ください。

9.1.2 グラフィックスカード

	グラフィックスアクセラレータ	Quadro K4000	Quadro K2000	Quadro K600	
	ビデオメモリ ^{注1}	3GB (GDDR5)	2GB (GDDR5)	1GB (DDR3)	
表示機能	解像度／発色数	DisplayPort	最大3840×2160 ドット／最大1677万色		
		DVI-I	最大2560×1600 ドット／最大1677万色 (Dual Link 対応ディスプレイ接続時) 最大1920×1200 ドット／最大1677万色 (Dual Link 非対応ディスプレイ接続時) 最大1920×1200 ドット／最大1677万色 (アナログディスプレイ接続時)		
DirectX			11.0		
OpenGL			4.3 ^{注2}		
インターフェース	外部ディスプレイ	DisplayPort	20 ピン×2	20 ピン×1	
		DVI-I	29 ピン (HDCP 対応) × 1		

注1：専用ビデオメモリの他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。
その容量はメインメモリの容量により変動します。

注2：サポートするOpenGLのバージョンは、お使いのディスプレイドライバーによって異なる場合があります。

9.2 CPU

本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

■ インテル(R) ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- ▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のソフトウェアを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

※「インテル® vPro™ テクノロジー搭載 Intel® Xeon® プロセッサー E3-1225v2」は、本機能をサポートしていません。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。

POINT

- ▶ この機能により本ワークステーションの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能の低下が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に切り替えてください。電源プランを切り替えるには、「■ 電源プランを切り替える」(→P.26)をご覧ください。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用すること（バッファー・オーバーフロー脆弱性）を防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。「プログラムの終了」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

9.3 ディスプレイ

9.3.1 解像度

本ワークステーションが出力可能な解像度です。

お使いのディスプレイが対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。

発色数はWindows 8の場合は「32ビット」(約1677万色)、Windows 7の場合は「16ビット」(約6万5千色) または「32ビット」(約1677万色) が選択できます。

解像度	対応	水平走査周波数 (kHz)	リフレッシュレート (Hz)
800×600 ^{注1}	○	37.9	60
		48.1	72
		46.9	75
		53.7	85
1024×768	○	48.4	60
		56.5	70
		60.0	75
		68.7	85
1280×1024	○	64.0	60
		80.0	75
		91.1	85
1360×768	○ ^{注2}	47.7	60
1440×900	○ ^{注2}	55.9	60
1600×1200	○	75.0	60
		93.8	75
		106.3	85
1680×1050	○ ^{注2}	64.7	60
1920×1080	○ ^{注2}	67.0	60
1920×1200	○ ^{注2}	74.0	60
1920×1440	○ ^{注2注3}	90.0	60
2048×1536	○ ^{注2注3}	注4	注4
2560×1440	○ ^{注2注3}	88.8	60
2560×1600	○ ^{注2注3}	98.7	60
3840×2160	○ ^{注5}	—	60

注1 : Windows 7の場合のみ表示できます。

注2 : お使いの外部ディスプレイのパネルの解像度と一致している場合のみ表示できます。

注3 : ワークステーション本体またはグラフィックスカードのDisplayPortコネクタを使用する場合、およびグラフィックスカードのDVIコネクタにDual Link対応ディスプレイを接続して使用する場合のみ表示できます。

注4 : 接続するディスプレイにより異なります。お使いのディスプレイの仕様をご確認ください。

注5 : グラフィックスカードのDisplayPortコネクタを使用する場合のみ表示できます。

9.4 光学ドライブ

各数値は仕様上の最大値です。使用するディスクや状況によって異なる場合があります。

ディスク	スーパーマルチドライブ ^注	
	読み速度	書き速度
CD-ROM	24x	—
CD-R	24x	24x
CD-RW	24x	10x
DVD-ROM	8x	—
DVD-R (4.7GB)	8x	8x
DVD-R DL (8.5GB)	8x	6x
DVD-RW	8x	6x
DVD+R (4.7GB)	8x	8x
DVD+R DL (8.5GB)	8x	6x
DVD+RW (4.7GB)	8x	8x
DVD-RAM (4.7GB/9.4GB)	5x	5x
DVD-RAM2	5x	—

注：バッファーアンダーランエラー防止機能付

廃棄・リサイクル

■ 本製品の廃棄について

- ハードディスクのデータを消去していますか？
ワークステーション本体に搭載されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。ワークステーションを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。ハードディスク内のデータ消去については、「付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意」（→P.163）をご覧ください。
- 本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
 - ・法人、企業のお客様へ
本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT製品の処分・リサイクル」（<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>）をご覧ください。
 - ・個人のお客様へ
本製品を廃棄する場合は、一般廃棄物の扱いとなりますので、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

付録

付録1 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、ワークステーションを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

ワークステーションは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのワークステーションの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ リカバリし、ご購入時の状態に戻す

などの作業を行なうと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまします。更に②～⑤の操作をしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。したがいまして、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このワークステーションのハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

ワークステーションユーザが、廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

ハードディスクデータ消去

本ワークステーションには、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域に固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性があります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- ワークステーション本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなど周辺機器を接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。
必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリデータディスクを作成してください。作成方法は『リカバリガイド』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビディスク」を起動してから、72時間経過すると、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビディスク」を用意してください。

- 1 「トラブル解決ナビディスク」をセットします。
- 2 「2.3.2 電源を切る」(→P.24)をご覧になり、ワークステーション本体の電源を切ります。
- 3 「5.2.6 起動メニューを使用する」(→P.60)をご覧になり、光学ドライブから起動します。
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

- 5** 画面の指示に従って「ハードディスクデータ消去」を実行します。
データの消去には数時間かかります。完了すると「消去が完了しました。」と表示されます。
- 6** 「トラブル解決ナビディスク」を取り出します。
- 7** 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

付録2 Windowsの新規インストールについて

Windows 8またはWindows 7を新規にインストールするときに気を付けていただきたいことについて説明します。

注意事項

- Windowsを新規にインストールすると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- Windows 8またはWindows 7をインストールすることにより、今までお使いになっていた機能が使えなくなることがあります。
- ご購入後に増設・接続された周辺機器は、必ず取り外してください（カスタムメイドオプションを除く）。OSの新規インストールが完了してから、1つずつ取り付けてください。
- 「ドライバーズディスク」の「種別」—「必須」に表示されるドライバーはすべてインストールしてください。また、ご購入時に選択したカスタムメイドに合わせて、「カスタムメイド」に表示されるドライバーも必ずインストールしてください。インストールしなかった場合、ワークステーションが正常に動作しません。
- 最新版のドライバーやユーティリティは、富士通製品情報ページ（http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html）にて提供されている場合があります。必要に応じて適用してください。
- USB3.0コネクタはOSのインストール時に使用できない場合があります。USBキーボード、USBマウス、スーパーマルチドライブユニットなどのUSB機器は、USB2.0コネクタに接続してください。

新規インストールの準備

■ BIOSの設定をご購入時の状態に戻す（→P.69）

■ ハードディスクデータを消去する（→P.164）

■ Windowsをインストールする前にBIOSの設定を変更する

Windows 8（64ビット版）を新規にインストールする場合のみ、次の表のとおりに変更します。

□ Windows 8（64ビット版）を新規にインストールする場合

メニュー	設定項目	設定値
詳細	ネットワークスタック	
	ネットワークスタック	使用する
セキュリティ	セキュアブート設定	
	セキュアブート機能	使用する

■ ディスクを用意する

- 正規のWindows 8またはWindows 7のインストールディスク
- ドライバーズディスク

新規インストール手順

- 1** Windows 8またはWindows 7のインストールディスクを起動します。
 1. 【F12】キーを押しながら、本ワークステーションの電源を入れます。
 2. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら、【F12】キーを離します。
 3. インストールディスクをセットします。
 4. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、続けて【F12】キーを押したままにします。
本ワークステーションが再起動します。
 5. 「FUJITSU」のロゴが表示された後、起動メニューが表示されたら【F12】キーを離します。
 6. 光学ドライブを選択して【Enter】キーを押します。
 - ・Windows 8（64ビット版）の場合
「UEFI : [光学ドライブ名]」を選択してください。
 - ・Windows 7（64ビット版）の場合
「[光学ドライブ名]」を選択してください。

「Press any key to boot from CD or DVD…」と表示された場合は、何かキーを押してください。
- 2** 画面の指示に従って、OSのインストールとセットアップを行います。
- 3** 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示された場合は、「プライマリ」と書かれたパーティションを選択してください。
- 4** 必要に応じて、Service Packをインストールします。
- 5** ドライバーおよびユーティリティをインストールします。
 1. 「ドライバーズディスク」をセットします。
「ドライバーズディスク検索 (DRVCDSRC.exe)」が起動します。
自動的に起動しない場合は、「DRVCDSRC.exe」を実行してください。
 2. 「種別」から「必須」を選択します。
 3. 表示されたドライバーを、上から順にすべてインストールします。
 4. 「種別」から「カスタムメイド」を選択し、ご購入時に選択したカスタムメイドにあわせて必要なドライバーをインストールします。

索引

A

Adobe Reader 50, 151

B

BIOS

- イベントログ 68, 149
- エラーメッセージ 148
- パスワード 61
- BIOSセットアップ 56
- 一起動する 57
- 終了する 59

C

CPU 158

D

DEP 159

E

Easy Backup2 50
EIST 158

F

F-Launcher 50

I

iRMC 77
i-フィルター 48, 53, 151

L

LAN 35, 77
LANコネクタ 44

M

ME BIOS Extension 70
MEセットアップ
—一起動する 73
—終了する 74

P

Portshutter Premium 48

R

Roxio Creator 33, 50

S

Skype 50, 152

U

UpdateAdvisor 49

USBコネクタ 43

W

Wakeup on LAN 22, 23, 66

Windows Live メール 50, 152

あ行

アンインストール 54
イベントログ 68, 149
インストール
—i-フィルター 53
—マカフィー マルチアクセス 53
インテル(R) バーチャライゼーション
—テクノロジー 158
インテル(R) ハイパースレッディング
—テクノロジー 158
エグゼキュート・ディスエーブル
—ビット機能 159
エラーメッセージ 136, 148
お問い合わせ先 151

か行

解像度 14, 160
拡大表示設定 15
拡張デスクトップ表示 17
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー
—(EIST) 158
起動デバイス 64
起動メニュー 60
クローン表示 17

光学ドライブ

一書き込み	33
一仕様	161
一使用できるディスク	29
一セット	31
一取り出し	32

さ行

シャットダウン	24
省電力	
一省電力状態	21
一省電力設定	26
シリアルコネクタ	45
シングル表示	17
診断プログラム	131
ステータスマニター	49
セーフモード	130
セキュリティチップ	38, 65

た行

ディスプレイ	14
一解像度	160
一解像度の変更	14
一拡大表示設定の変更	15
一マルチディスプレイ機能	17
ディスプレイコネクタ	41
ディスプレイの電源を切る	27, 50
データ実行防止 (DEP) 機能	159
電源プラン	26
電源を切る	24
ドライバーズディスク検索ツール	51

は行

ハードディスクデータ消去	164
ハードディスクパスワード	61
廃棄	162, 163
ハイブリッドスリープ	23
パスワード	
一BIOS	61
一ME BIOS Extension	71
パソコン乗換ガイド	49
ビープ音	136
富士通ハードウェア診断ツール	49

ま行

マカフィー マルチアクセス	48, 53, 151
マルチディスプレイ機能	17
一拡張デスクトップ表示	17
一クローン表示	17
一シングル表示	17

や行

ゆったり設定2	50
---------	----

ら行

リサイクル	162
リモートマネージメント	
一コントローラ	77
レジューム	22

Memo

CELSIUS
C620

製品ガイド
B5FK-2091-02-00

発行日 2014年5月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。